茶箋儀則巻之七

八

ヲ多9
635
7

昌平坂學問所

茶筵儀則巻之七

臺天目乃總旨

但臺天目ハ客若敬の筆の湯之用也専ニ用る
事なれハ何れも總而主位乃者ニ限り有徳
の者にかきり主位格別の貴人ハ貴人合の者近
別よき者ハ合有徳の者にハ同事なりと云
ハいまた合あるましく候又ハ同事ニ致
保て深志を捨て深志を以錦織無く肘セ
臺天目也云合人と致すへきあるかのむねに候

内 ヲ 9
藏 635
巻 7

今諸流ハ同業より十分まての老人世ニ云
三人とひ法よ合し格別の老人 今老人ハ候乃
弟子似て弟子にもなく伝来を候の業を
唯建盞天目のみを委しく記せり

一 天目ニ七種の名有事
烏盞　能皮盞　羊皮盞
曜變　灰被　白天目　黄ハ天目
以上七種
又或家の七種ハ烏盞を除て油滴盞を入替ル

黄天目の口ハ白ニて目の黄天目とや
又石州流抔七種ハ歌よ
建盞 乾山 油滴 灰被 曜変 抔ハ
能皮盞なり
烏盞とハ烏の羽色よ似て黒く出来たるを云
能（タイ）皮盞ハ能（カメ）乃甲よ似て葉の下ニまきれたる梅
又ハ梅の折枝又ハ鳳凰抔揮様なるハ極上品也
又ハ上葉の黒つき線補して白き梅の折枝有て
ゆり羊皮盞ハ羊抔乃皮よ似たる唯変を

水のやうに黒み掛りあり
但窯変と書て云天目を焼時人の血を交て
入て焼ゆゑにて成也年を経るなし
とも云り未考
一灰被ハ灰をかつきたるやうなし　一黄天目ハ黄にし
てりも少し黄なる色の紙を見之建盞の黄
天目ハ黄色にて黄也白天目ハ未見也湯
盞ハ何れもかはれて黒きのごとく
乾山ハ唯何となく建盞を写したる之鄒縣山ハ　流けり

縣山ノ建盞ハ海のより天目にも用建盞ハ白
本物にて天目にも写し右様流と合て十一色
何も立用ゆべし
但天目をも人に用ゆる事慈童鄒縣山よ
なりては菊の滴をなめて七百年を経し
不死の仙也依之天目なれハ毒消なり
又茶事用の菓子筆様も世天目を写侍之
然るに時ハ建盞青様二色用てハ不苦人也
点まハなき事と多し

又天目と云ハ歐陽宮の雨ハ滴を並語し来る
又天目とも云り来る

山上宗二書ニ曰

一 天目ハ是紹鴎不持之ニよつて白天目也
とつて天下ニ二ツ内二ツハ関白様よりハ引拙
の天目ハ堺油屋にあり何も灰被也世中
灰被方とふかり上中下あり数を不知内
三川ハ上ほう数の茶よてうる天目名物之
一 黄天目ハ灰被より劣りけ只天目の黄く是ハ無
上ほ多き物と三ツハ天目と云也海ハ津か
ゆうきの触け
一 建盞昔ハ能星油滴鳥盞別盞無之
也盞ハ寸六つきと盞の内に代譯き物之
按に名物有世天目拙者乗物かりと云り
一 台天目といふる有これハ生ハの盞を好まれ
なまきハ常出しもちもの大出来し
一 盞ハ七つ盞しかる有天下ニ名物数寄
物ほよ数の盞と云之此盞ハ代ニ又中は

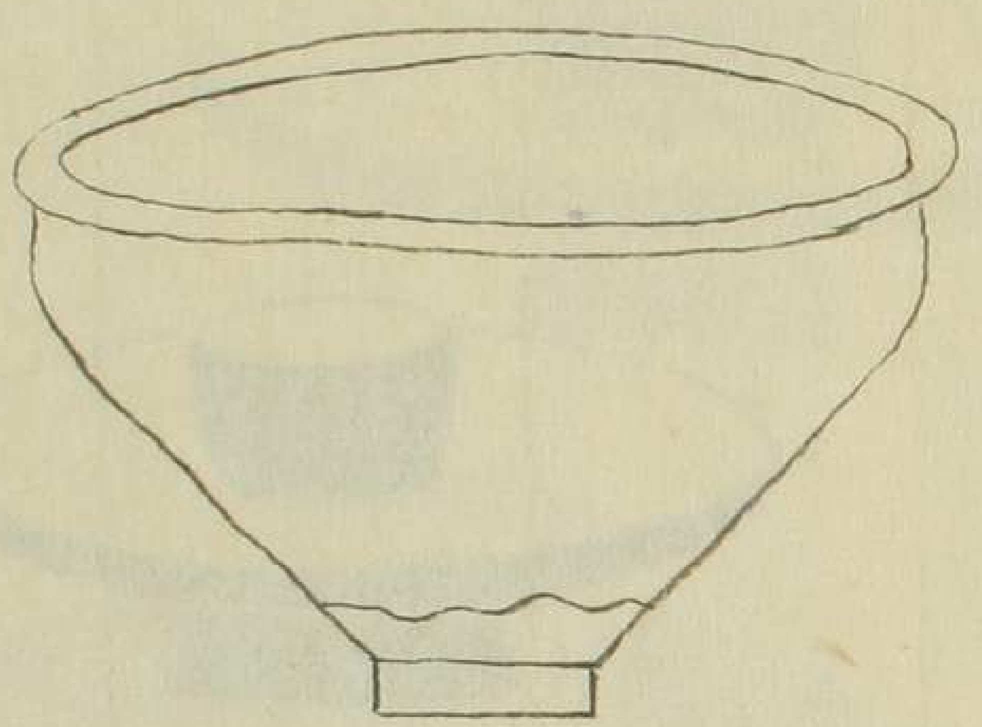
これ迄出の巻ニの事有之巻ハ常ニ出シ見る
事ハ大ニ悪し
山上宗二ヵ書ニ曰
一 七巻此巻是ハ壹番也 関白様ニ二ツ在 臨済
録語也 朱にて梅花の印朱にて一文字有
此内梅師一文字ある故に前田殿有
大納言殿秀長公ニ有 宗及ニ有 此牧の巻
の名物と称し口伝有又主の巻代我と云
様ニ口伝有 貴人ニ巻ニて一字書在物

以口伝有大事之事 巻本ハ 惣見院殿御時
代大ニ失申候
一 松永殿ハ失申候 代ニ百貫ニ実也 昔宗慶此
ウルに大阿弥と云手紙も七ツ入れ候
五郎伝来見出し 御相談之様ハ口伝有
一 尼崎巻 百貫ニ宛
一 同 五拾貫宛
右の巻ハ是巻ニ朱にて蝶松印ヵ巻の
内にて当世大名道具之佗数寄也

次の絵図

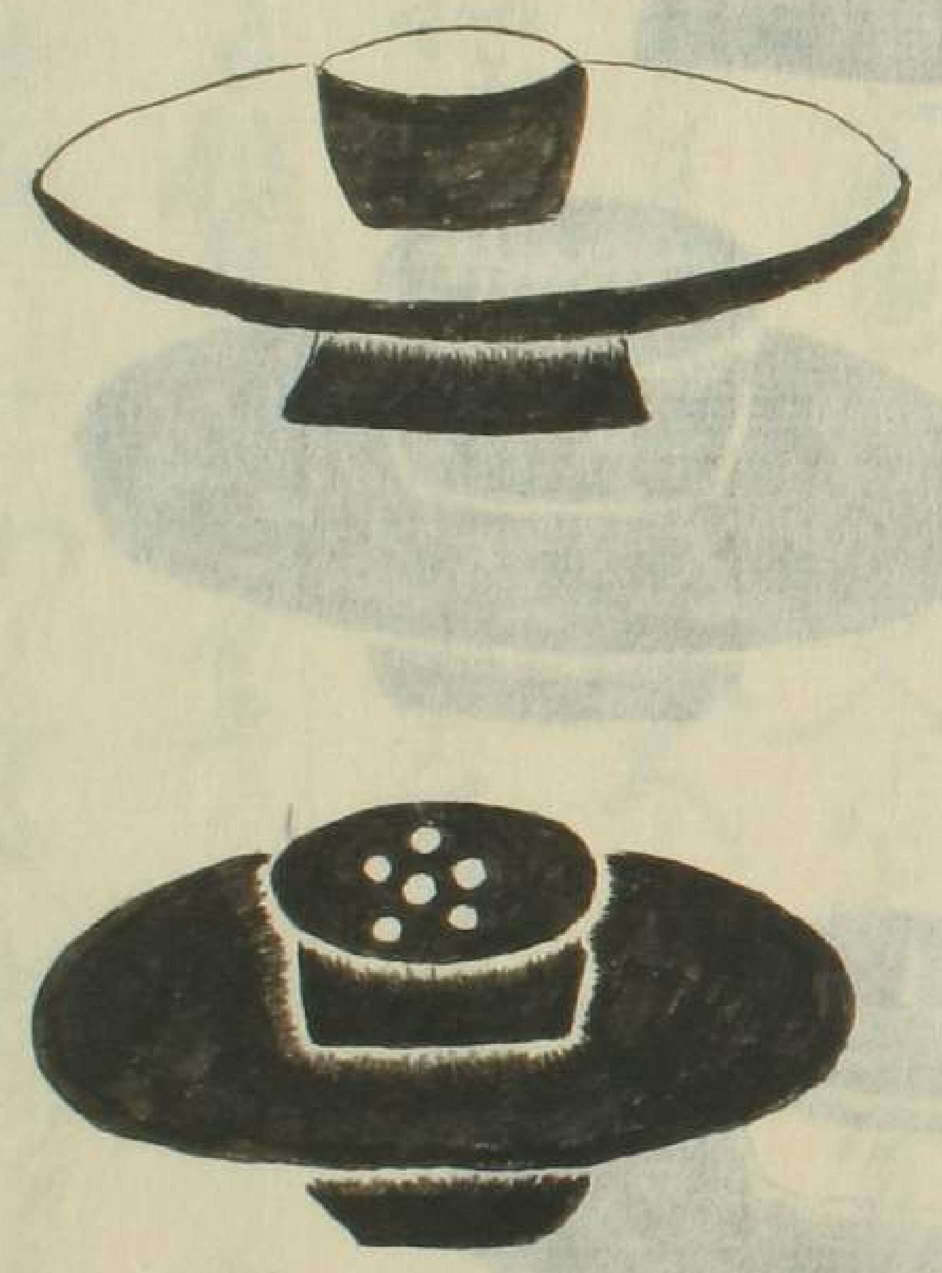
一 常の建盞これハ平成物也貴人所へ上る
のあらしき事

又七種の天目の内たいひさしハ別て宝物
也稀別の物の様ふうんやらしゝ中国利也
天下何成けハ盞の色来るを宝物し
かしもる



天目建盞の外に遠
まへ云形天形ふしく
内くぼく高く朱ふ也
上茶の所そく
臺ニ飾りて賞翫物也

一 尼崎臺付器



臺天目平ニ而天目立
但臺天目ハ無ニ居へし
一水指ニ茶入並合候事常
但水指之前通ニ置也是三寸五分ニ置テ膝
之内ノ方ニ向寄テ茶入大ニ候ハ水指ニ合置ニ
候ハ指払ニ半也大分三寸五分置候
一膝ニ付ニ少程茶弁ニ小ニせんも飾りよふ二ても
水指之前通りやかる者ハ水指と間寸六
三分一ハ向きつし也半分置又指払ニ置

勝手の方へ引寄せて茶入置也小の時也引茶
入ハ時也茶入の前に竹[illegible]置之
一 大目[illegible]居の時ハ柄杓ハ組て柄
端を茶入ハ左の方へ[illegible]蓋の表に
茶入をかさね候も有り
一 但柄杓の時ハ[illegible]せてしを明て
柄杓ハ水指より右を柄を勝手の方より
[illegible]の目に置して目前を柄杓をも見え
右の寄せ置候よし置きなハ茶入柄杓に

仕舞の時にハ柄杓をかたわらに置きて茶入と
蓋置又ハ茶入ハ前に[illegible]右の[illegible]
のる時ハ茶碗を[illegible]勝手柄杓見候ならハ
右の候ハ[illegible]也
一 勝手口にて茶入の仕廻して客へ大目にて
次の所へ出して持出候
但し目の前の茶巾を仕廻茶碗茶杓常の
ことし仕舞る
一 右の茶巾ハ茶巾を[illegible]のして出入

方ハ三ツよりも縁ハ少し出し茶巾
唐物よ添り所よ入もハ人へ置へし
並之天目ハ出しの茶巾ニ茶入ハ方之
しかと据る也

一　臺天目持出候ハゝの座敷にかり(?)ニ置ハ後ニ
作し茶入を置て左右ハ後出帛紗ニ而茶を
盃天目し置て拭後縁の内ハ炉ニ向
帰くをきれきハ板帰き手を縁の右の指也ニ
帰ちニ掛き手の帰き指ハ回か西へとる也　御湯

膝よ帰しきを掛也
此薄縁ニ茶入のる茶入天目置合候半
より帛紗探出し釜炉縁掴まれ
大手帰ルへ探出こ大はの茶の湯に底に
茶碗指たる羽帚指出之へハ羽出てたき
中宜に拭光掛西ま二指出の湯をぬくさ
まを拭き置て又包畳ニ手拍よハ両披ハ縁の所
小羽帚ハ毛を右きに掃ニへ探出ニハ結ひも
之丸品揃分る目品ととて通ニ帛下に来し

大目よ弐肘胴第中縁に操り出し
きひ出ても右若く尤甚く抱よ八分くさまて
出来申しよろしく九寸

一 春に成り出て地縁の肘ハ此縁好き申す
云々

此変の也乃指て筆入三分一前錯しハ上京の房
かゝり

又撥乃巻の元より尓かけて筆入重分の肘ハ
甚春目出来指出居よ乃方尓かゝり尓至右まて

筆入三寸中引台居天周至居二福縁之尺
二ほし出好き是入撥出し 居より尓まて出ほ
し たる指出居重柄抜右出之尼尓竹橋之太
の撥を云入出て竹橋定程尓重柄抜右より之
竹橋よ無間之中尓の房之

又引し筆入居より引寸踊りの方より也此目
陽枚よ房り前尓竹橋分肘ハ叠天周出前
指出居よの方竹橋より二前尓かゝり尓至同肘
常二尺しの至尓の太と芸しき所よ至奴

於台天目ハかりニ而ハ少もかまひ無
百ヶ條ニ二段〳〵の次ハ重ニ而も有之也
右ニて竹輪二段〳〵かまひ之と覚へき事ニ
かり二而重茶入右ニてとり中ノ方茶台
と重合ニ盆縁含尺ニ置也　柄杓ハ常ニ掃也
縁ノ口上ニ尺之ニ置是ニ而付左ニ二段〳〵右ニ
柄杓拵ニ置二段〳〵茶定ニ置竹輪左ニ
云太の柄杓と左之竹輪至定ニ置柄杓也
又云物ニ置ニ据置下置ハ此謂也

又柄杓定此ニ乃て無茶入ニ茶杓入れニ而
竹輪ニ置時ハ右の中置下置の台尺ニ合
て茶台ハ置又下置の置也
一　二段〳〵の内に竹輪入掃出し柄杓掃出し左ニ
茶碗ニ置ニ而柄杓入右ニ置　左ニ二段〳〵
柄杓ハ置ニ二段〳〵定ニ至内の竹輪
又云太の柄杓と云者竹輪也
一　論吾ハ置右ニて柄杓無之也
一　三所茶入ハ自由ニ茶入ニ二段〳〵

但西京ニ而ハ客前ニても通し候事

一 主客座ニ而建盞天目茶碗の飾様ニ而茶杓
并通り候ニ無之事

但中柱之前通ニ而柱前ハ其心ニ置

建盞天目の前ニ而茶入とも飾り置べき事

我身と中柱との間三ヶ二先ニ置也

一 茶入右ニ而茶杓通ニ置茶入袋ニ出し 茶入始メ候

客座ニ置候事ニも無之事

一 茶杓拭候事茶入小袱紗ニて拭可申候事

一 始メはさしニ而水指を遣候而始メ茶巾ニ置ル

常ニ建盞天目ハ置方ニ而直し可有之候

但焼物の茶盞ニ而置候ハヽ茶巾置始メ可申

しれ茶巾置合柄杓蓋も始メ前ニ置

一 柄杓右ニ而左ニ始メ候之合の始メ而候二置

おき始メ候事ニ不及候

但建盞環通候ハヽひの二ニ而始メ置候

一 建盞天目ハ湯を柄杓ニ十分ニ汲半分ニ而要

汲天目ヘ入柄杓左ニ返し中蓋ニ柄杓置

もし好ミ二重ハ知ることハ無用

但極意としてハ茶碗を少し右ニ湯を云

ろうを扱ふ湯を二ッ分目ほと汲て天目ニ

入拵ふ茶碗を持添て天目を上中ニ

内の湯を足し次第ニ也しゆく候ゆく

立入のきを置て足し候ひて天目ニ湯を

御しせニ候（ゆきを附右ニ持先にて好く置

をおき（捨る也と好く候）なき附をおさめ

るに何も扱者通右手で置をとくとも

番に置て附先にしまして立貫身さる候

又蓋を先の間湯に極意文のとくしも茶巻

ヲし湯を汲て茶巾の間湯と云事也

也も天目を先の間湯置て極意を間湯

お復候ハ天目ニしまて置しくるひ

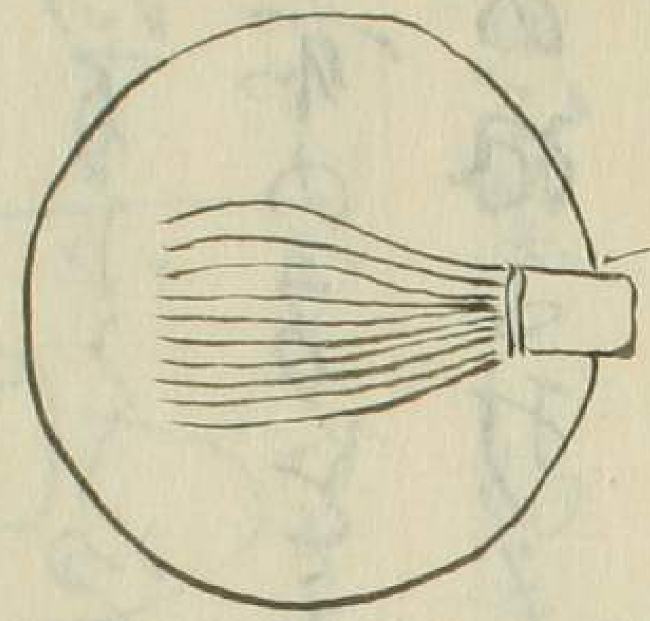
又は文之ハ為し候文書ニ候ても修業甚

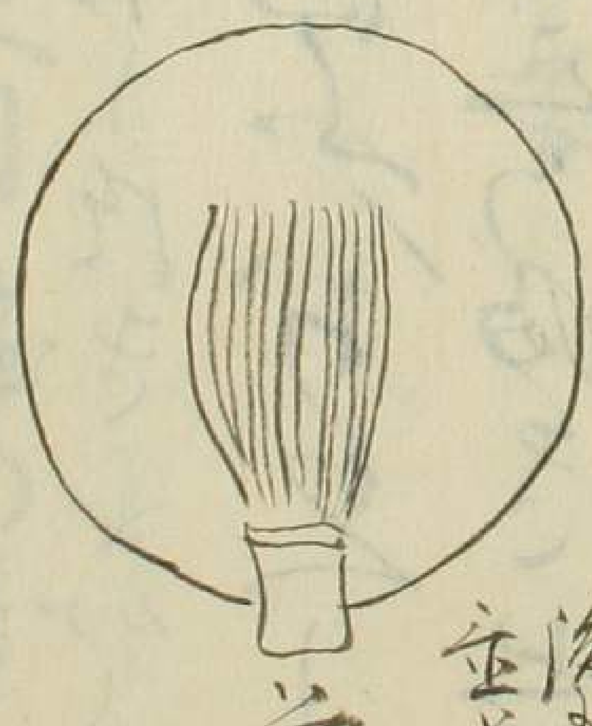
附ハ珠光雲伴ニハ多く書とも不及候

一 茶巻ニ右ハ常ニ柄を右手にして天目ニ入て之柄

湖文茶の方へ向くし置也

但室ニ乱雪帚ト云ハ天目ニ添ル茶巾
ハ袋ハ是ヲ出スの茶巾也
又其茶筅の柄天目ニ入ル時ハ向へかくし置候
時も前ニ向キ柄ヲ順ニしまひ置へし
一時ハ柄を前ニ有也

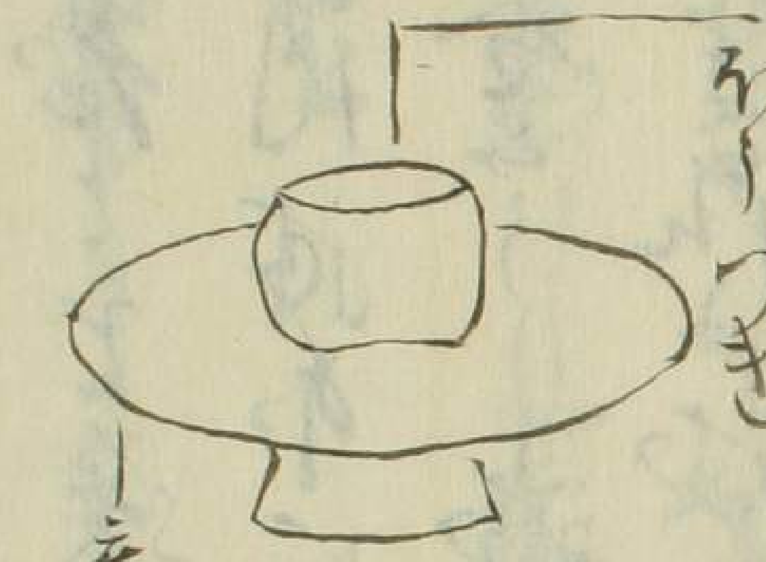




一天目并ニ盆ハ右ノ方ヘ並ヘ据候
小並大方茶入と茶碗との真中ニ置奥ニ
圖ニ
一好くき茶入を好く机ニさしきき 右ニ並べ手

一かく盞を左上におきて臺を持右にてふくさを
ほそく疊み先の方へつきやにかけ付置其後
取りけるは、ふくさは左へしき方下に如角
の折りくし上り織に取りけく二つふき
足をハ柄の茶入をとり且中指にてふくふきあとを
茶入の方に少くふき茶杓をくはへきよからずふく
されど茶の方をとりて印ふへしめし直に
印ふの柄よ打り付けて二つふきに、上をハ柄杓
茶入に上の中柄にふきこみにて　柄を持

右ハ如此ざめして持除するを盃ふくさ候にて也
此先生此ふき様承傳



天目臺の圖

一天目ある時して左上にかえて天目中に持茶入
中さし盃ある茶入の柄を左にし方へかけて
且し中にて常の茶入をのし後に

但茶入ハ中ニ持候天目大指ハ天目のなかの
ふちにかけて人さしゆひ口の内へ指ハ香盒
の右の外の角を指え当て指ハ持内と
香盒をと透け中ニ持候也へ之
手の内ニ持つき物にて
茶杓置し被持時天目ニ持くるしき也
言葉ニ記は持ハ又ふくさへ置き天目ハ其後
一 茶杓茶入ニ置候時ハ茶巾ハ天目ニ湯を
こほし置き候時ニて茶巾をとり置候也

一 茶入ハ持ちて柄を通して置天目ちくと
少しゆかしく帛紗茶巾天目の内へ入置香盒
ニ置候時出し置して置
一 茶巾置し候茶ハ出し候時ハさだき水指の
蓋ニ置
一 茶杓右ニとり茶入を左ニ置天目へ帛紗茶
を入置一服茶入拂ひ候時ハ其後ハ拂ひ候と
心得て被成候事も候なり
一 茶杓帛紗ニて茶碗の上ニ置候置く事

為乃遠慮して茶杓の目先を天目の内へ入揃さ
右の手出し候かハ而茶入の口ニ掛ル義如常拭さ
して茶入の蓋置申候

一 茶を入申候付て其天目のうちかハ底にまわし
茶セくことかハ申候 常ハ茶碗の二方ニて打
払ひ然共天目ハ始終之遠慮して天目の内
まて目先をうち払ひ申候 其上ぬくひ申候たゝき候ハ
常打払ひ申候 初茶杓ハ茶入ニ掛候て仕候常

一 拵者申候 尤御釜の蓋を右ノ蓋置ニ置候

三ツ物常の通り

一 天目へ湯を汲合候て茶筅を汲入申候
残り申候ハ右ハ底ニ付申候 常の柄杓を釜ニ掛置
但茶事ニ茶筅を汲候て三七合程にて汲置申候
尤人ハ眼ニ茶碗をいため申候

一 茶巾をぬき茶碗を左ノ脇ニ付其天目ニ而動き申
拵ねとめ茶巾をうしろニ置申候
但茶巾の儀ハ二きしぼり候 人ハ茶巾ニ而天目ニ入申候
中ニ而茶巾のうちにまわし申候 口伝有之

寸方無てハ肩ニて立ると云ハ中家ニハ心を
立席と云
一 草立茶巻四半ニして貴人ハ茶入と茶巾
手前帯し
一 臺の持様と云ハ其持様を輪無之ハ無なり
向ひ輪無之の四半ニ置す
但同輩ニ附置して臺天目ニ附置文
貴人ハ輪無之也て台ニ附置ても無出し置
老人ハ輪無之台にて台ニ附ハ台ハ持様
或ハ又ハ輪無之ハ出し置候ハ夜便を持る
もの也し尤下座の人ハ貴人ハ一ツ事
老人ハ云人ハ別ニ無之
同輩の人ハ臺天目立出し置き客に挨拶
臺を取上けしまいとも挨拶ニ及ふ
臺天目取上候人ハ臺ニて茶立ニ
下と一旦挨拶ニも及
同輩の人ハ臺天目出し附置候ハ挨拶
の後老人ハ別ニ茶の湯ニ及ニ臺ニて立候

下座ゟ挨拶有ハ江戸ニ而も可有御座候

一 客人茶を呑候ハヽ其後ニて亭主ハ挨拶
挨拶ニ不及茶湯ニ候事

一 台天目點前之時ハ常茶の時と違ひ候て
柄杓取ニ付り右ニ而茶ニ立て右大目先の蓋
ニ而ひ時ニ茶据の右ニ取り茶碗柄杓左ニ
取り蓋の上ニ置いたし右ニ取候へ柄ハ無之ニ
此之ニ而柄の茶ニ蓋置の上ニ而と茶ニして
右ニ而其居柄杓へ置きと云しきて候

一 常ニ而茶碗の外ニ茶を呑候茶ニ合の時ハ
右柄杓茶ニ付て茶巾茶の蓋へ右ニ取候ハ
ひ其ニ取り茶台天目ハ付ハ一向大概ニ
台天目の置そろの仕候

一 正客より台天目點前之時並ニ出ニ
從同其の人ハ天目ニ手をとり無用ニ志り
礼之有し

一 客より請取候ハヽ常より其難して返し

一 天目台ニ而置ニ載ヶ付先ニいたして

臺飾の時も其外も風炉點茶通ニ置
但同座の時ハ只天目臺ニ乗付いきを残て
臺ともニ不苦候

一 蓋ハ臺右ニて左の方茶碗の際ニ置

一 柄杓ハ蓋ニ置右膝ニ置し又ハ茶の方ニ置し
以常ノ茶入の蓋ハ左ニ蓋ニ置

一 柄杓右ニ取り湯をくみ次ニ天目へ入て柄杓
釜ニかくる也

一 天目并茶筅上り口の湯をこほしたてゝ

かしへ柄杓付右の手で蓋へ置之、下の右ニ蓋かく
置て茶碗ニ常のとし

一 天目の茶筅通しも右の手ニて茶巾も少二度
茶巾捌の時も常のことし也

一 右の柄杓を茶筅入れ、はしきの湯をすて
二度天目へ入、柄杓を茶碗ニ入る

一 茶入を右ニ取天目へ柄杓を右手ニして入て湯を
茶の方へ置し也、先ニ蓋の蓋へ置
し並へ置し其外茶の二ツしの時のことし

一　帛紗出し、さばき候て茶入帛紗にて右手に持ふた
を持たるゆへ、蓋と共に出て右上蓋を左に
持、右の帛紗をしはきまはし、附大指人指
中指三ツ四本にて持て、帛紗を手持とられし
左へ向け、二ツに折て置候、帛紗さばきは
先の方へ二つ折、ハ帛紗をさはきて、上に之
角を持て右手に帛紗を懸けし、三ツ帛紗を三せハ
初の帛紗に帛紗に掛け帛紗を乗せ帛紗を指
先に右さきへ蓋の折り上を向て、右の方左より右へ

其より帛紗の折左より右へ、其方帛紗をも右に帛紗
帛紗を持なから渡して出して茶杓通して置
然とも帛紗ハ茶入の帛紗にて後にて如斯
右帛紗にて其帛紗を茶杓に帛紗にて茶を
直に帛紗へ常にあてしと直に帛紗にハ不
苦候

一　天目をも出して上茶の文ハしのこともしれ
其こしき天目又はのちに右目茶入茶ふくさ茶
上来る茶のことし

佗天目ありて出る時入合に茶杓の柄を茶
わうしの頭成に取にして九上るとき茶
の前を植と云也 此時は湯して(も)不苦
茶は入る次第也

一 茶巾右にかけ左にて天目の湯を捨る時右の
茶巾のけ出て掛る也 扨又はちを掛る也 扨
如此湯通して雪と茶天目とることもきて茶
巾内は又ありて茶入に置時左にて戻

一 茶巾右にて出し 此常に洗て以し 以茶

直にはさるき天目に仕也

一 茶筌仕也 茶杓常のごとき天目に置附者
せさに掛に置ても如くるくときさは常の如し
但し唐き天目に茶杓茶巾揃置

一 時宜により左を右へ附也 常

一 客まへ取置不乞時は茶入をもまた置く
台天目相を西す茶入の左に並べ置
付る

一 水指の蓋を右の手にて左に渡し 此常も茶巾切置
置

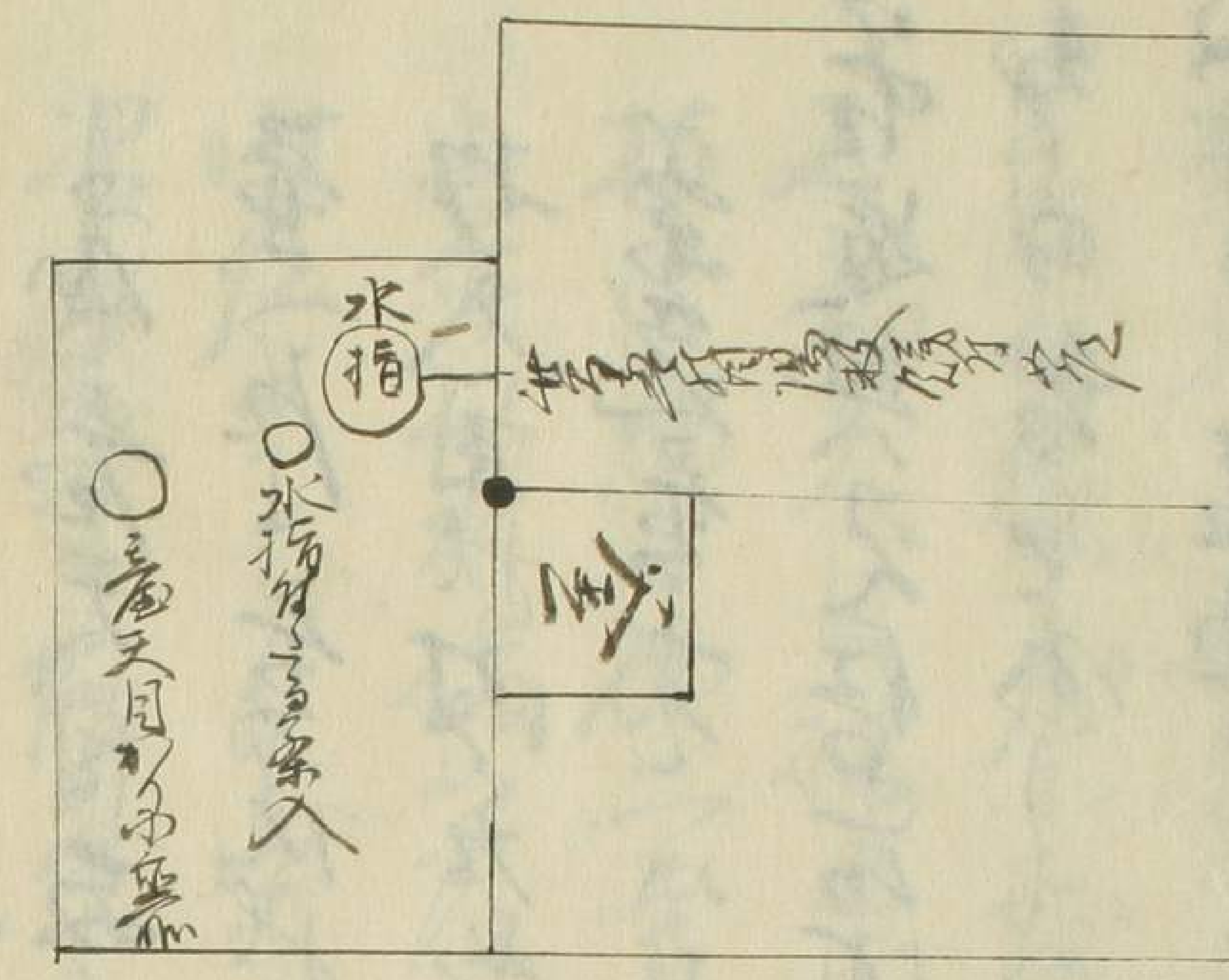
一 棚板ニ茶入置事ハ水さし棚板ニかざり候
(脇)ノ右ニ置候の茶入をも棚板ニ茶入置候
真ニ飾るときの事也
但茶入ニ袋ニ入置候時ハ棚板ニ茶入ハ十分ニ置
上段ニ茶入茶入ハ中ニも置候也
一 水指の前ニてもこれを置候也
一 茶入の前ニ置合て茶入ハ前ニ置て可也
一 茶入袋ニ入茶入袋ハ茶入の右ニ置候
但茶入袋の茶入ハ前ニ置候の事

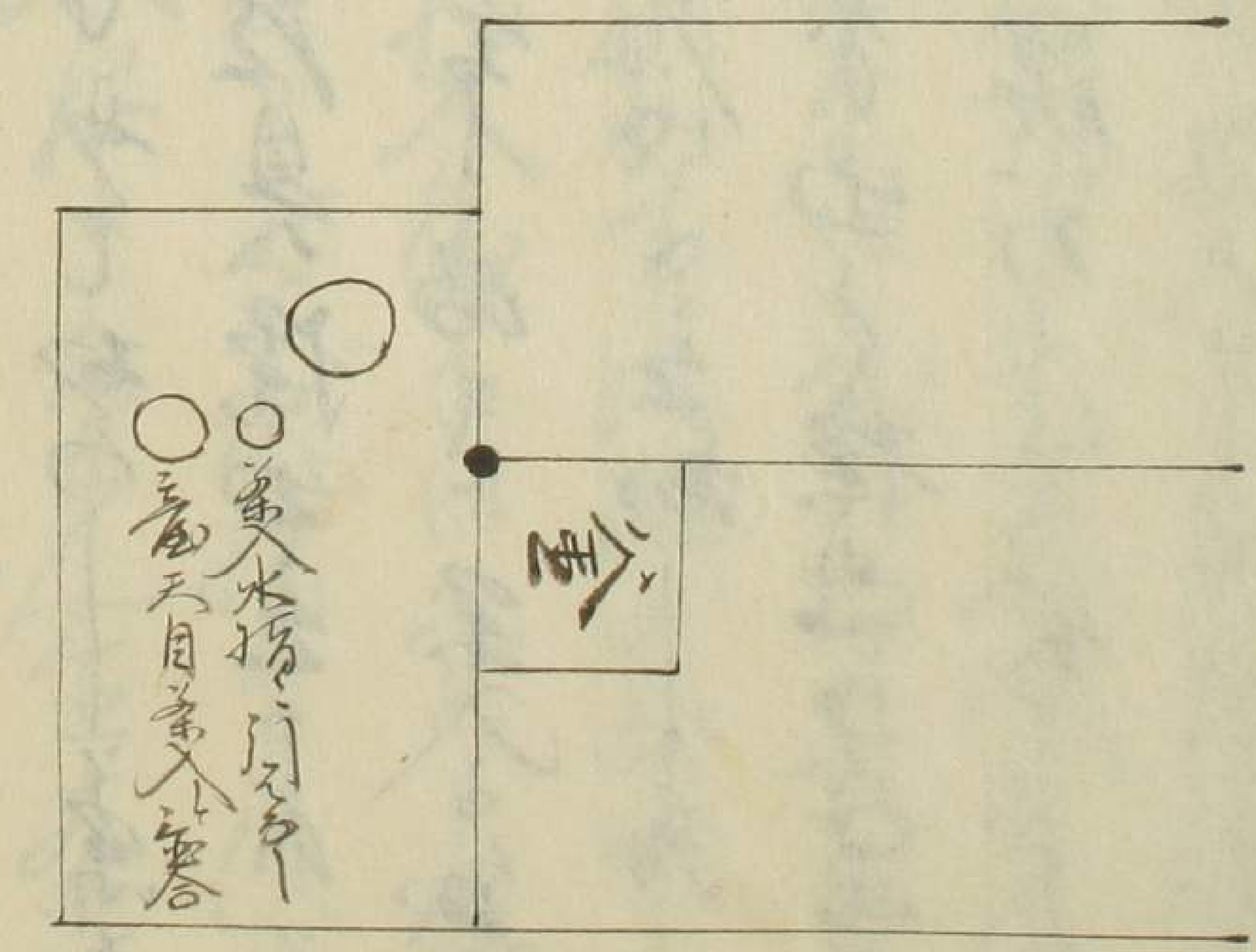
天目台の前を置事ハ常ニ茶碗置所(茶入)ニ
又台天目ハ台とも置所(茶中)(置所)ニ
不及とも也(尤置所)
一 茶具ハ棚ニ置ハ中ニ置事也
但棚板ニ置くも二重棚ハ上の棚(上段)ニても
又棚ニて置てもこれも其のとし
一 台天目棚ニ置時ハ台天目を棚ニ置てもよし
棚ニ(置)置とも置てよし
置時ニ茶入袋ニ入置ハ棚ニ置

一具被茶湯出して其時ニ濃茶進申ことニ而也
茶入中ニ天目台ハ持入申方宜候ニ
濃茶碗座ニ飾置し見苦人多ニ候
又座天目台揃出し座中棚ニ置し
棚中勝手ニ飾二重棚の下段棚の正中
上置水指水指出し後持入胡蒔ニ而
前後見し茶入出し中ニハ水指ニ入出
後茶ニ濃茶入候て茶入茶碗茶杓
置候而後の茶釜置ハ出し置の先と見し

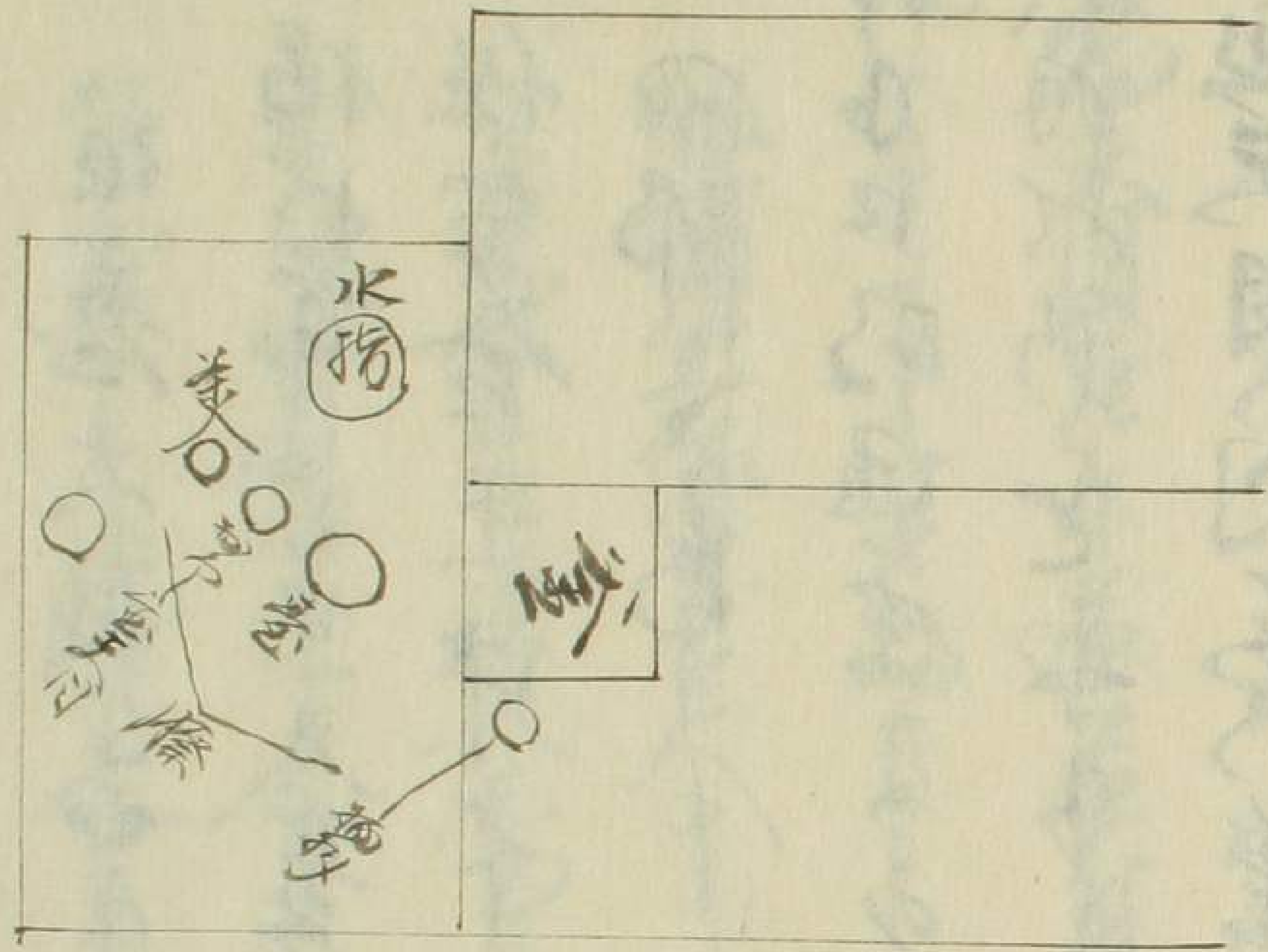
き所ニ置茶入如常ニ置有ニ置中勝
手ニ飾座天目台ニ出し置し茶入と
並へ候て置候て茶具ハ揃出之中ニ茶
持入候て何れも如常ニ置き茶入ニ置也
茶碗置候てハ其侭ニ置可申候
一客通具ハ亭主伝一所何分出し揃也ニ而候
茶の者を用し　一礼かし候ハ常のことも
致して清候し

大目臺天目飾り之図

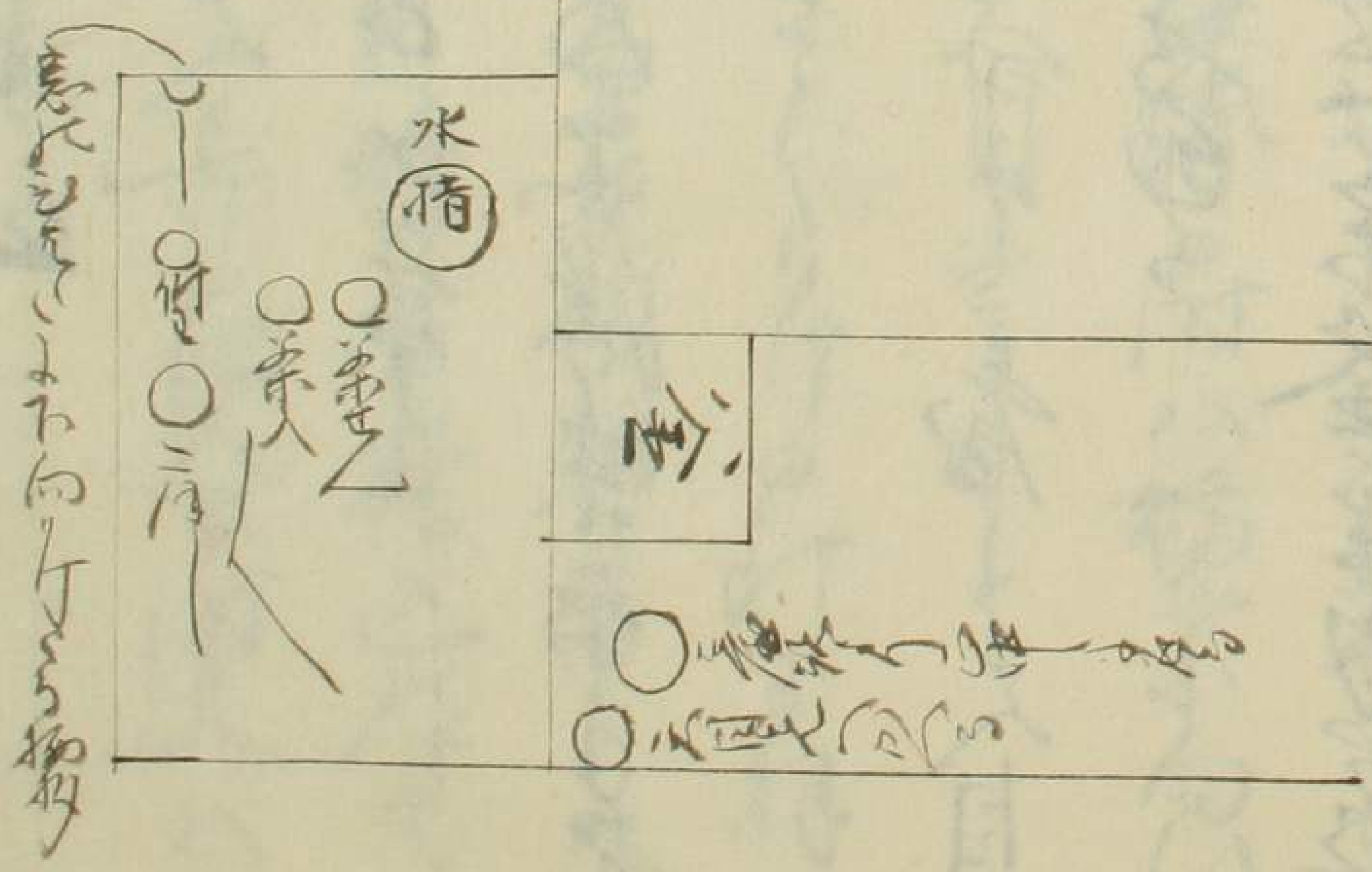




大目臺天目手前之図



客より天目臺返ス図



臺天目平ニ而四畳半ニ立
但臺天目ハ高ニ而台ニ乗之
一水指ハ常之茶入並合ニ如常
但並合上中下餝乃次第茶事ニ而
の部ニ有へし
一掃ニ口明候茶ニ而仕とりて臺ニ天目
飾相ハ新を出ニ而へし　拝見
但天目の内迄乃茶巾仕也茶釜茶碗ニ
仕也是ハ茶巾のニ而天目ニ茶新ニ飯

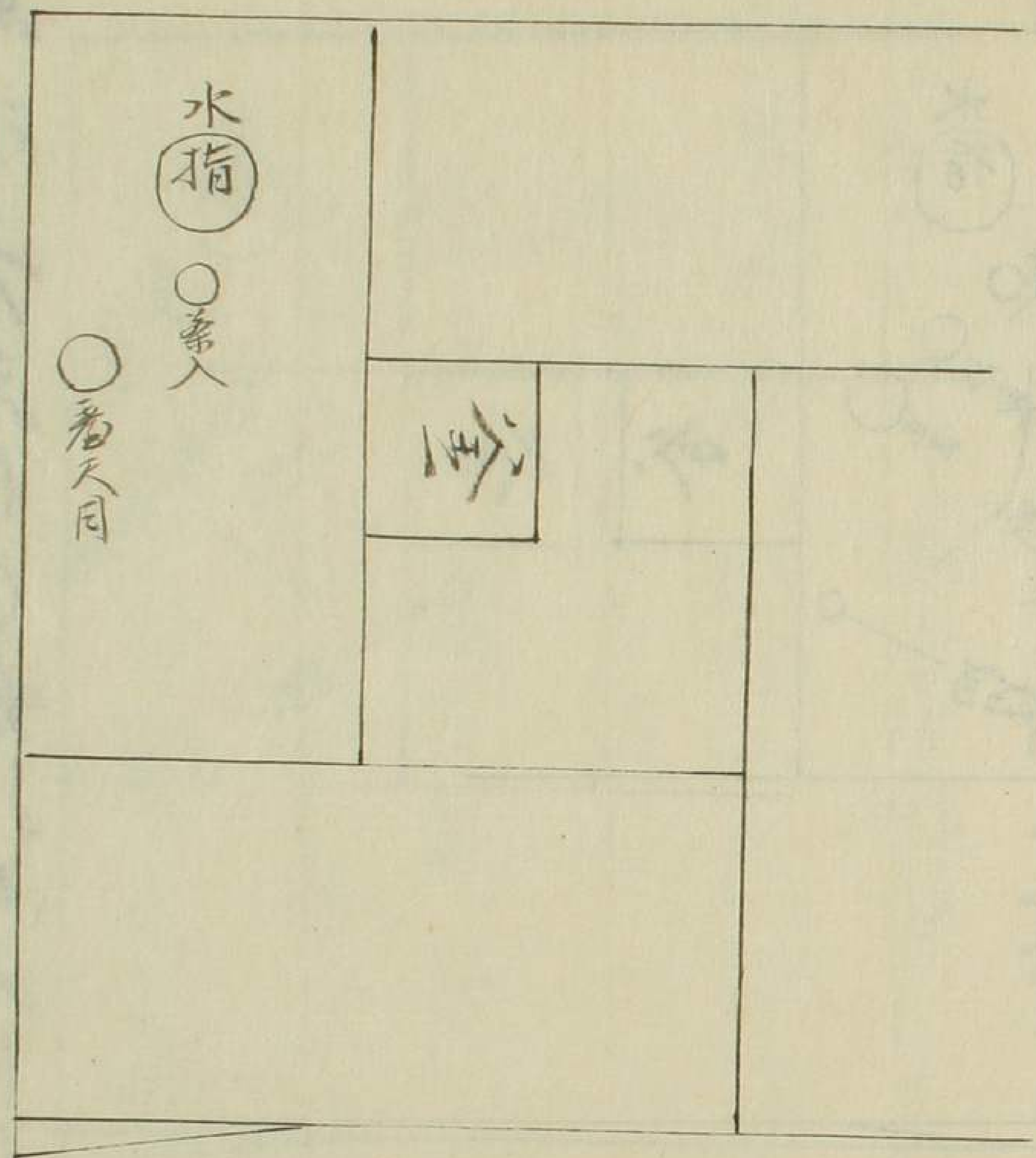
一臺天目持出帰ニ而後ゟ鉢ニ盛　水指の前
茶入を右ニ置て水指乃中通を二分右ニ並
臺天目茶ニ並置附　相座敷の時ハ揃へ申候
ゆくさきさきさし置ニ天目のとし
但茶座敷ニ入候ハ二きくさけの内ニ而
置ニ御茶入臺天目置附相茶帰ニ而
申候座敷ニ直ニ帰ニ而茶帰ニ帰出候
探ニ而も帰ニ而これもいけ花又ハ硯ハ
拵付ニ而ハ先ニ帰ニ而申出

一　春にかゝり本地標の時ハ丈部明きしるし安之心
一　陰より出る門より文下中居道を探出すより
末常に濃き朱を同じく養天目に云
天人目立し大に同じてめしく実なり
仏蓋座の星奥の所にあしく被る女
指と浮んでべし
一　第五亀尾の根を西に出て指際より論出之如
しかも論出ての正中へ出る
仏其人目出事人の指大目の下にあし

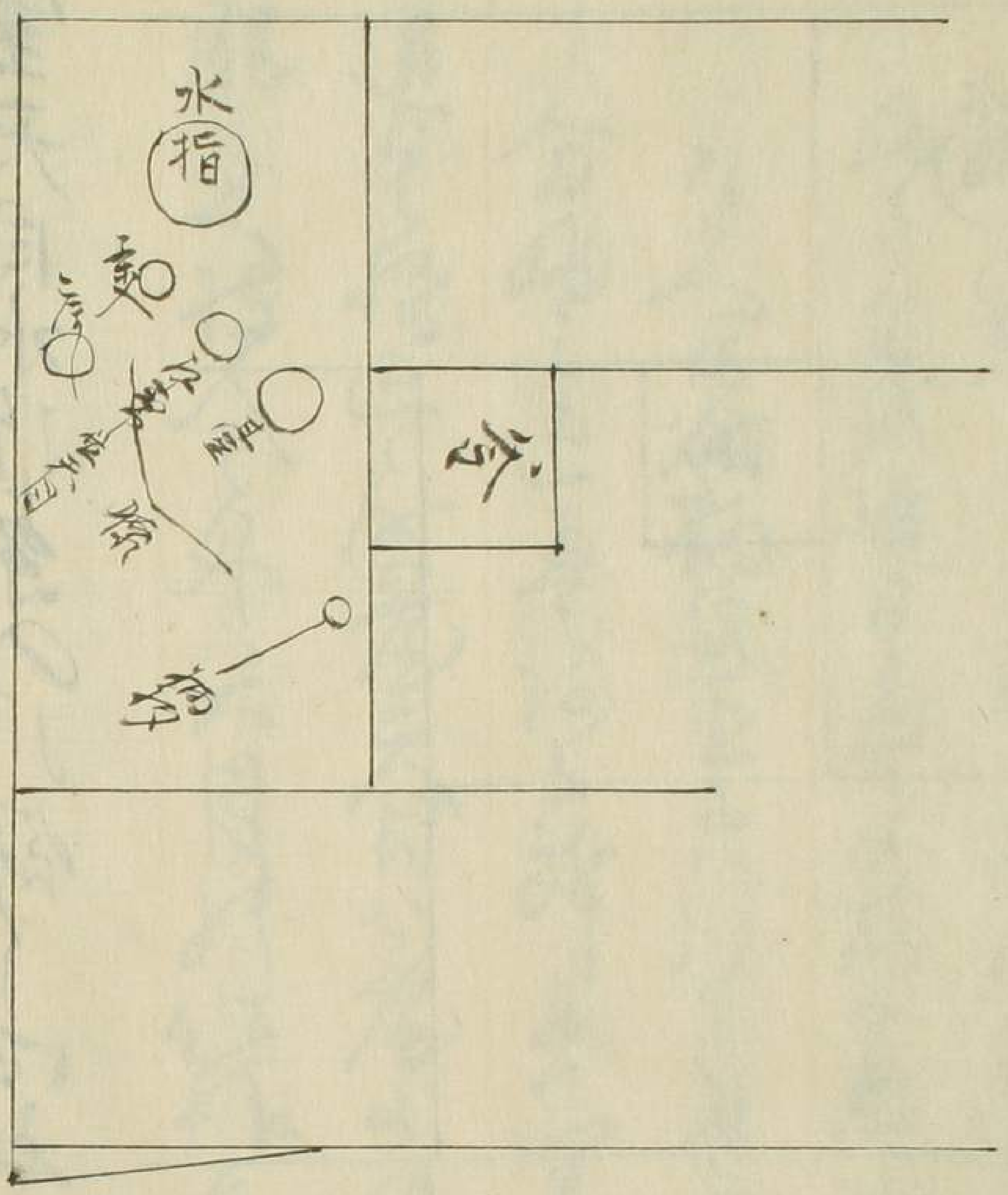
又其人の指爪の時ハ論出を上に通るを
也是ニの三つより出でゝ指をいり間広くて
際切れ出る也もせ之べし所あり
貴人のしるしなるべし
一　養天目論出へ出し小指金の下に出して
柳指左にあり石より蓋座の左へ出るしるしより
始て座際の右にありて座をさし石より柄
杪付の汁より始て座其下の通にて座
時始まる座より座の方客付の方めして座是也

さしまてゝかふ茶立座之
仙掾返しけの汁なき時ハ釜の脇ニ置右より
脇ニ座成道具通ての右の角へのきて拵返シ太尓
元入仕舞柄杓釜ニ而見ての湯尓置是ニ
分脇ニ置通ひ引ク所也宜し
一道具揃出て台天目ハ茶を掛而見て持く
勝手へ持入其外ハ天目杯仕様ニ同し

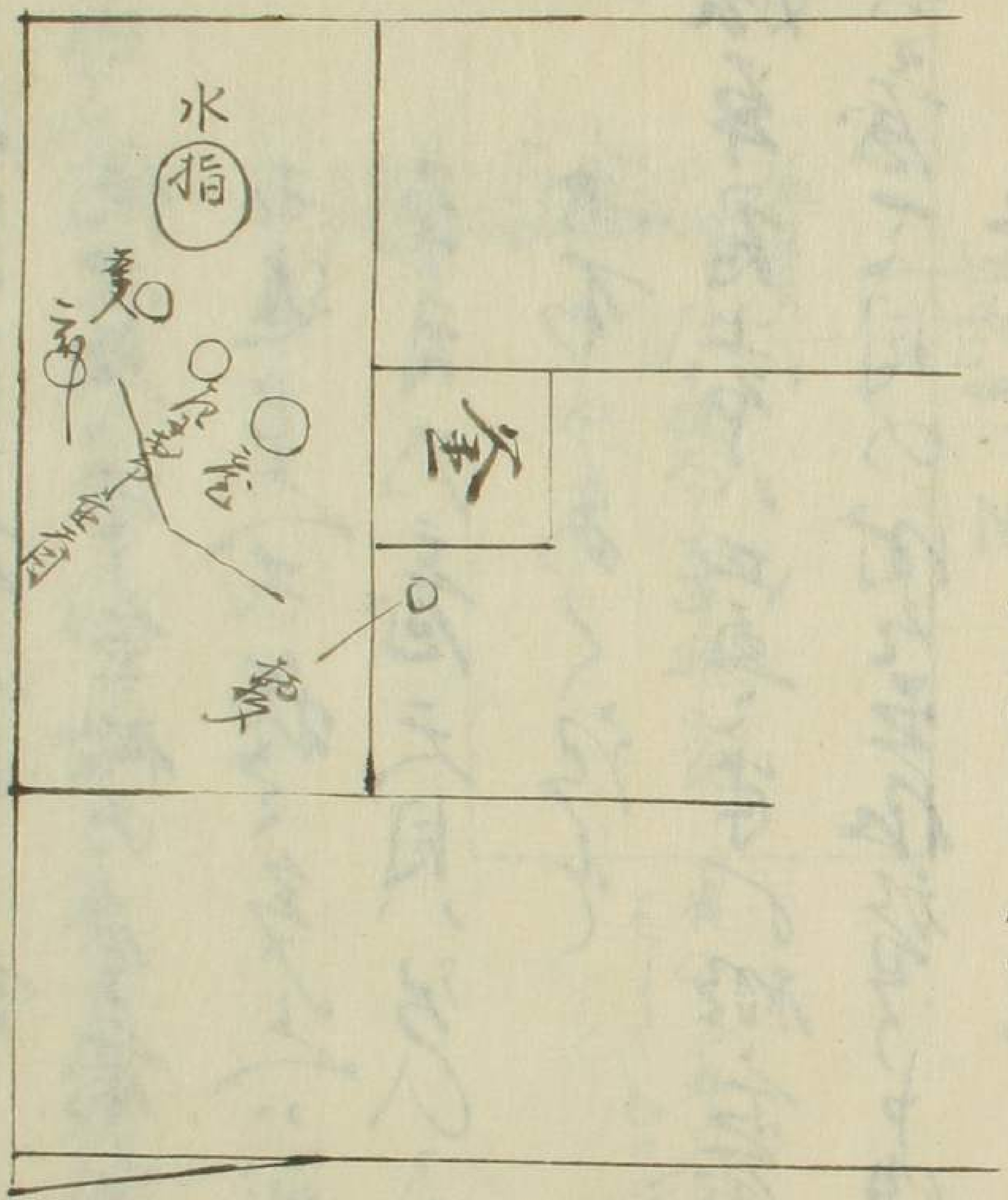
臺天目水指茶入ニて餝り四畳半



只置半臺天目ニ而茶入飾天目置合之図



又取合ハ盆ニ乗只置半臺天目ニ而茶よ
好ミ台天目の通り輪盆ニ入替候共可見也茶器

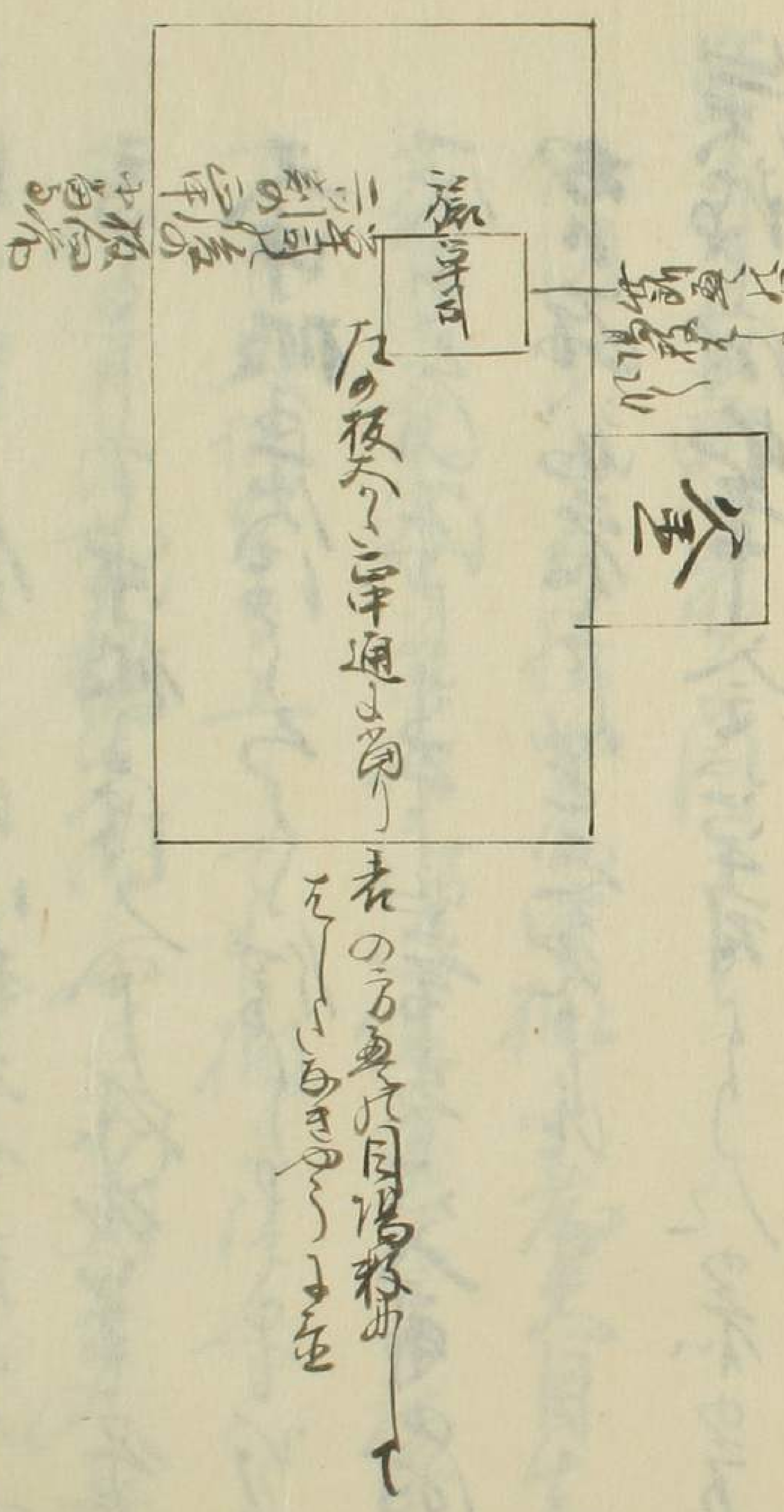


加しく候
茶碗ハ大名ニも茶入
大海ニの茶入
茶碗をも置候
只置半臺天目ニ
茶人とハ遠ク
取合ある大円の盆
蓋置取論無之

飾草引盞天目之事

但四ツ半臺搬の事搬ニ而かはる事
無之候其様ニ多少ハ別ニ記し候茶
草引乃盞天目ハ別ニ有之ニ而しかし
此所ニあらく記候

一振草引常ハ四畳半ニ候搬臺子と同じの也
其盞一ツ目の時ハ臺板敷ニ而置ハ也
此臺板ニ而常ニ草ニ而臺子其他臺子に
於而ハ有之候乃事ハ図をあらハ



一物ハ草引の上ニ香箱相蓋備り也
此香箱ハ臺子ニ而常ニ備ハ可ク候

但據ハ元據ニ而脇附ニいたし候ハヽ様の字より
少し下りたる處へ草書の間にて水指ハヽ
棚の中にても飾り申候水指手き様成又端
なくして中棚ニ置候へハ様成も置申候
又中棚ニ炭取ニ置候ても僞り申ましく候
炭をも添申事ニ候常ニ入用の脇附ニて
炭取ハ脇附ニ而も苦しからす候

一 炭取脇附常ニ合ハ草書より少の字の方へ上
置申ニ而草書合せ道具ニ而も置申候

一 中立席中飾

一 草書置所前ニ同し
但同し中ニ水指出し茶入中棚ニ置又は貝尻入
茶入菓子盆茶杓仕込但茶入菓子の極真ニ上り
ても又柄杓の方上りても棚に添ひて真横
ニ仕込申候乾極真ニ向ふ勝手の方ニ茶入上ニ棚
ニ置盆立ニも致申候茶入手き様の如候
何ニ而も中ニ置さく上の棚ニ物出し候茶
一 月額の内し下を又前ニ棚ニ置申候の

之座枝に添へ中にハ能さし出揃と在ゟ
枝との間に嫁て置を向き二方を大中ハ從
花ハ添ねと上より指出置候事

諸草司手花

一 掃ニ品物漆器等ニ仕候て左右二脚ニ指出
時掃ゟの間より草司并花ニ座ら
さき容并の間より差し掃ゟの頭ゟ掛ケ
かり申候

一 草司の花ニ居掌ゟの口を以出指草司
の程寄ハ上ニ付け大指ニて程花の枠を
下より上へ押上さそてぬき座へ左枠の所
の花を先ニ出して草司の花の枝ぬき立へ

とせ置の上に重ね二通となり

一 右の縫前の前へまとりて左へ出して
川して右脇へまとりけれ川し左にて
草司の内の方に左へ出表を包 此方よ
しておくこしよせて重ね二通となり
但左右前に重ね縫前の様に二の左を草
司との間になり
又は草司の左へを取は内草司をたくと云
右突の縫前の脇縁をくへとして

左を前へおもて川して右脇へ右まとりけ
右川し押とり草司の内よりて右へ出草
司の内側へ回して内左の表を右ひ押して返
まはり文字へ右の左り右に此まを草
司の内しろへ出し右まの方に此右脇を
指く人は当へ又まと抱ら前して草司へ
しろ其左をよせ巡る左の表前なし
裏の方しろに紙出しせへけ此い
右浦をおもて前す心字にこれ草司をたく

と申し古実の作様論せし也されは世に及ふ事
なきの様なくしせんさき也然れハ多き申写
へ共世附ハ多く中右此方へ寄り申候文
の通写文世草の事に出二本立要附
ハ抱しくの此之人とし次へ出す附右花ニ
かきらる人情の方よりも出し申し

一 柄枝右より左へ寄し大きそ如く二而も大事
の枝ニ論ありく出し無之如くの大小により而
ハ花々て有へし

一 上の枝の筆文右ニ出ありし草の花の枝
代筋の花ニ而

一 次の枝の巻天見羽の所をまほしてお
ろし筆入より左に而へ而

一 草花の下此枝をまとも上にて右へ出て静かに
しまいし重ニ上の枝ニ定花にて花の方
上の枝と一盃に抑而也
但此枝と上の枝に市とも水指辨の外
きく八上ゟさ出るに花房おもし

水指高く〻ハ此影下の棚を上の棚へ置
猶上の法かまへ置候へバ付合の法ニ成候其ハ
天目ハ上の法ニ置其ニ而相済候ハ法ニ成候
べしまくらしさへ置候て月の指ニ棚の上ニ而
て大指置て棚の下へ小まへ置候ニ也して
さし出しハ棚一番ニさし置大指共ニ置候

一 御目前ニ而茶入ニ而茶を置候而も無和の茶ニ定し
なしの大目立は仕様ニ同し
但石様大目の前ニ置べし

一 唐天目羽の所ニ而袋より出し茶通二ケ二と申
置申候天目ハ茶和ニ同し

一 茶入袋ニ而茶通置唐天目の茶ニ置袋より
出しても出候ニ而袋の置所 上ニ置候て 前ニ置
棚の上ニ小さき二通り置唐茶ニ表上置候 右まで
を上の下て置置

一 茶入出帯ぬきて 台天目ハ茶の前ニ置唐天目ニ置べし
置て前ニ置

一 茶杓ハ ゆきハ茶入ニ出ニ置候て出候

一 茶入とり前に茶入仕組し候ハヾ茶入の右ニ置
の茶巾ニ置候
但唐物之茶入ハ盆ニ立候時ハ茶入を茶入の右
の茶巾ニ置茶碗ハ台ニさし出柄杓を添
置候ニ大目之時通り

一 水指の蓋座ニ置候ハヾ茶杓花ハ柄杓を合ニ置
なし候ハヾ置かして茶巾置候ニ出すへし

一 出候より茶入之台置候迄大目台天目ハ置にて
扱ふへし

但之さしも大目之通り相違なし

一 茶入之台し出茶碗之蓋置中入して右之台ニ茶入の
外の上ニ茶巾ニ置て残る湯を右方ニ茶巾ニ入
さし下向ニ置ニ置天目台乃かへ候を添へし
大目客付之さしく不知事なし

一 天目台かへり方通ニ置一礼ニ茶を大目台天目
之通りなり

一 手前の内に座して之さしたる時左へ流し
候さ置たるより出前論通て置台之のかた二置

ゆより天目まへにきさの湯汲候
ぬきとりてさき天目ぬきとり候て茶入台天目
同前の通り盆臺しかるゆへ大目と置天目の
通り也

一 水指の蓋右にて取てふたを上にそむけて
茶右手にて取切右にそへてさちきこれを草司の同前の
板の表を置もどさる[illegible]にてふた盃を置てより
きりと合の蓋をとめ、[illegible]盃に返さて水指の蓋をと
それをきこれ右手にて置其大目置天目

此通置きてよし

一 当へ置より盆臺に附ハ出候て大目置候
同前の通なり
但茶入天目に茶杓盃を附候て大目置候
同前の通ハ茶入を茶入へ入て置天目ハ茶入に
有之候茶入へ置てえ置草司の板の（細也）
一 草司入茶入を右の茶入に置て盆板木
是ハ出し茶入下に置候
但此茶入の板かうつき[illegible]の切也より

指そておくは無為柄を上か也嵩れ
底目も右手にて向ひかゝえて置て
後もかしも不苦
一 釜天目釜の蓋を置て指水の柄を半く
なけれは
但羽箒天目小住也石附ハ小羽箒両袋
ニつく羽箒伝ふ仕也座中也
一 初すし右ふ羽尻へ流し始て並右ふとり掌
置つ間初の釜新ふ並を初すし右にとく

一 初の炭も出之尾羽の水を又羽向を置
一 二つめ炭ふ立て掃けて又加ふ出帯
一 水次帯して指出草鉢の羽に居り置
指入て渡りしる
一 水指へ手を掛け仕也手渡の前の勝手の方へ出置
のきを入すの立入羽にて立ち出炭の心指にて座し
始さ渡也
一 後羽の後羽尻にとり立へ流し初とりて也
耐ハんと指出て初の炭もとし置也

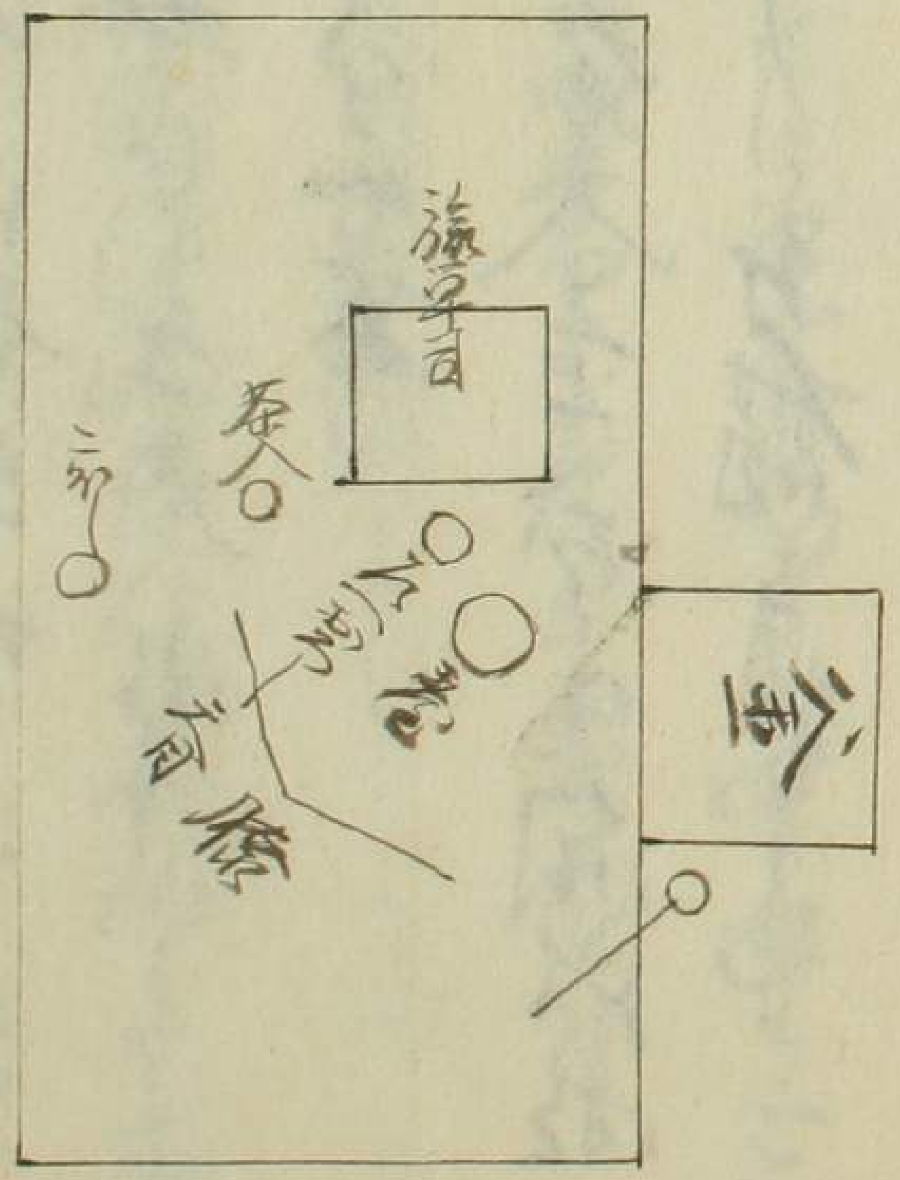
一 取のけ置ハ水次持出ル指入ル也其後如此
しテ勝手口ゟ入ル也

一 客道具見仕舞也其後揮出ル也常之客
より一礼ゆるゝハ常より殊ニ慎へし

一 炭入ハ臺出ル其後茶巾之筒ハ付キ茶入置ニ茶
抄臺指出ル天目出ル之客へ出し相伴ハ
茶入置キてなし候ニ而其後出ル茶
棚の水指ニ同し

一 炭入ハ取入ル也なし候ハ天目ハ揮出ル也常ノ

常のごとく茶碗之飾出立之ルなり
又同茶入之此所ニて右之書院ニ出し
中付此文字目の候ニてもよろしく
稲草同正座天目同然具ハ配



一臺天目にて茶ハ向切出炉立
　但臺天目ハ要にて云ル限り
一水指に茶入并合て出帯
　但水指の前に茶入并合ての間ハ明に
　垂半比のき心ヘり　所飾る居し
　寸外勝手の飾云ハ人よ左右早ト之の飾りも
　かくしれ云外の　飾ニ構ふ元服向切ハ
　流義ニ不好様候ニ云茶器飾也
一勝手口明く流儀にて仕廻し臺天目羽の

茶もちを持出候
　但天目乃内茶乃茶巾　仕込置て天目立
　の飾ニ有し
一臺天目持出勝手ニ置并ニかりに置水指
　まつ茶入を先にそこ置水指の中置とり
　分水ニ置臺天目出帯居ニ並置付
　但臺縁に云ふ宋天目ニ同し
一茶碗一向ニ構と見へ向ヘ出帯しに据へ
　探出し　柄杓入り出し　構て白見めて茶ハ

二尺一寸五分さし指尺入也二尺ノ宝庄
小座敷の心にて置花ハ左右のかさしを見て
薄板なき左ニても宝庄ニ置様左ニ置
ニ無る奥ニ図あり

一 主客着座清目出ニ而又一礼ニ及ふ

一 主客座敷ニ着ル時炉の花入の縁を目通ニ置へし

一 台天目茶の湯の所 右手ニ持目通ニ置ル

也常し

但膝ゟ炉縁迄の間三寸二分ニ置

一 茶入右ニ而台天目の前ニ置候へし

宝庄ニ置ル也常し

但袋ハ置所 水指の膝ノ方ニ而はさミ置

底向ニ表上たりり

又角ニつきの棚有時ハ棚ニ置

一 茶杓ふきさ茶入ニ越ル也常

一 茶碗茶入ニ並置ル也常

一 ゆくきよ水指の蓋ふきさ茶巾置ル也

一 台天目ニ湯汲入ル也 天目のことし

一 同湯大目立の形よくハし

一 茶せんの極りこし碧ゆるやうし板のゆ碧
大目ニ同し

一 茶入ハこしかへしゆる奥ニ寄ル事

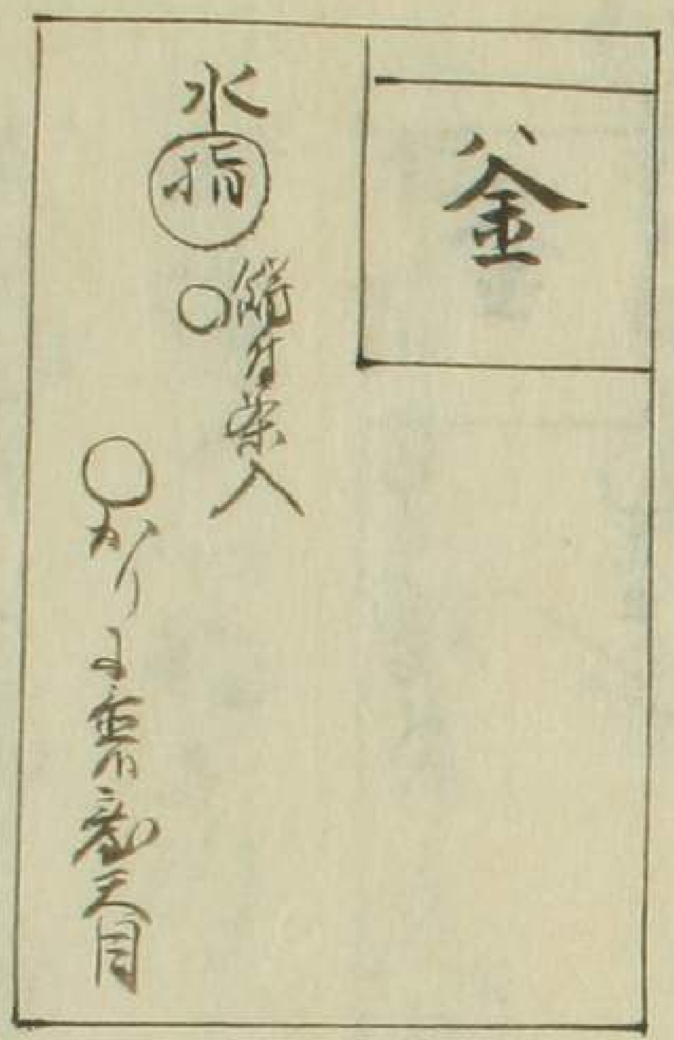
一 茶立様大目ニ次第と同し

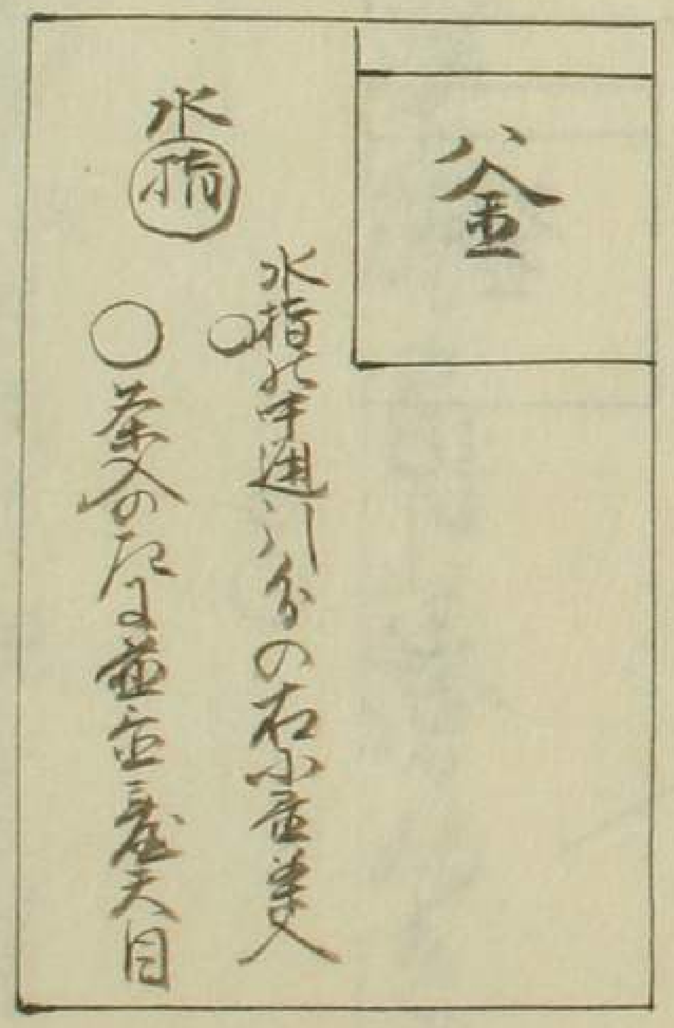
一 茶立台天目外の事ハ出し合の方中
[illegible]し天目台の座りよきて板ニ置る
これ大目ニ同し

一 道具揃ても常

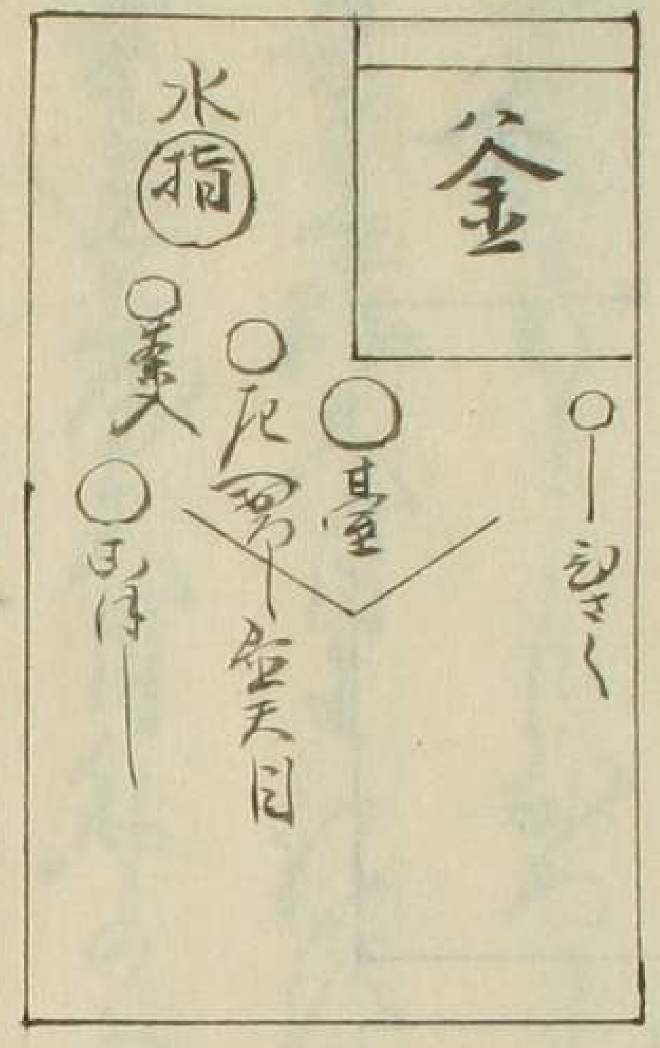
右何も大目立と考合ぬべし

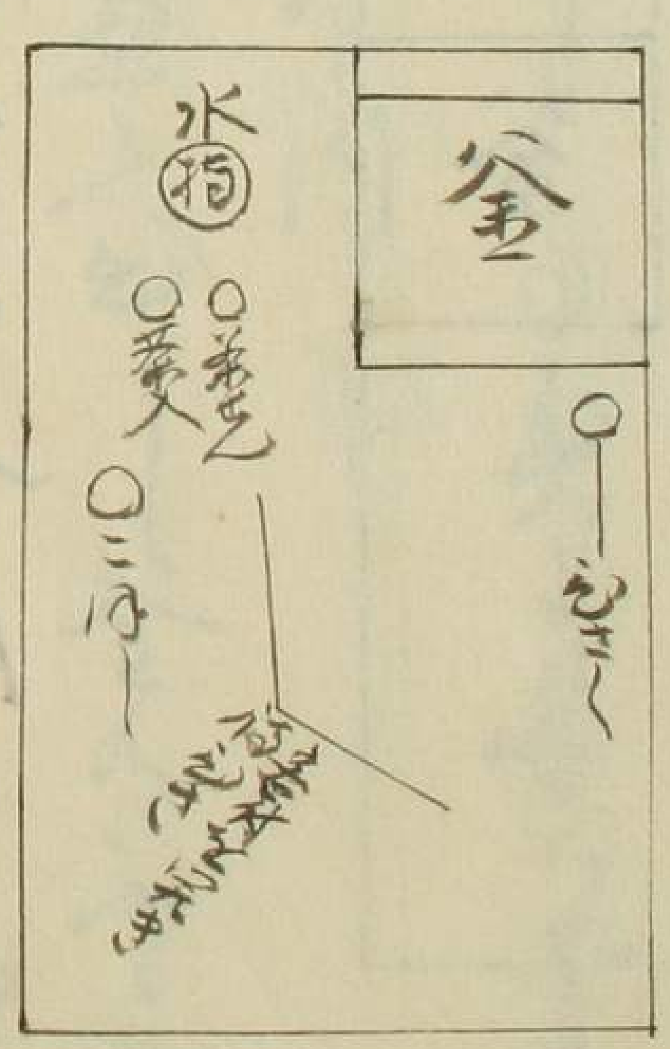
台天目向切出炉水指茶入の勝





臺天目かざりの図　客より　天目臺居図





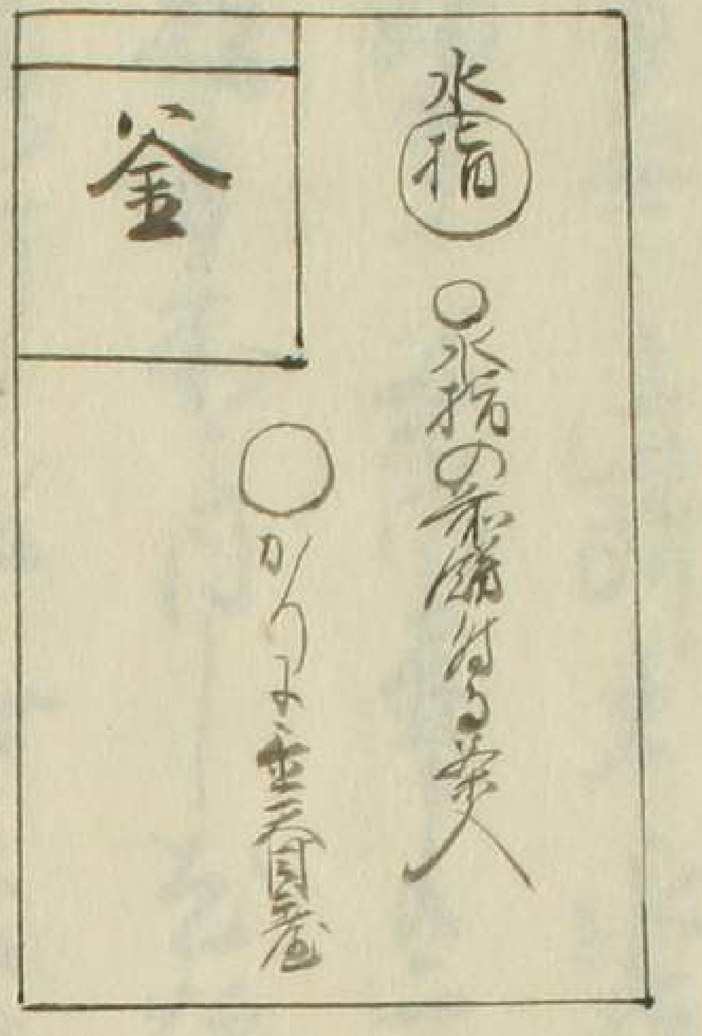
臺天目向切角炉の手前
但右ハ前ニ同前
一茶杓ハ風炉乃形茶ニ前ニ茶入候ニ而
通り之く置同ニ而風炉ニ前を炉ニてふ
付ることニ候
但炉ニ而前ニ之ハ渾を縁ニ而ハ縁ニ附きける
也炉の心持ニ同し
又風炉ニ而ハ前の内臺天目と茶碗より出てから
き茶入ハ臺天目の右へ引付茶ニ前ニ有之

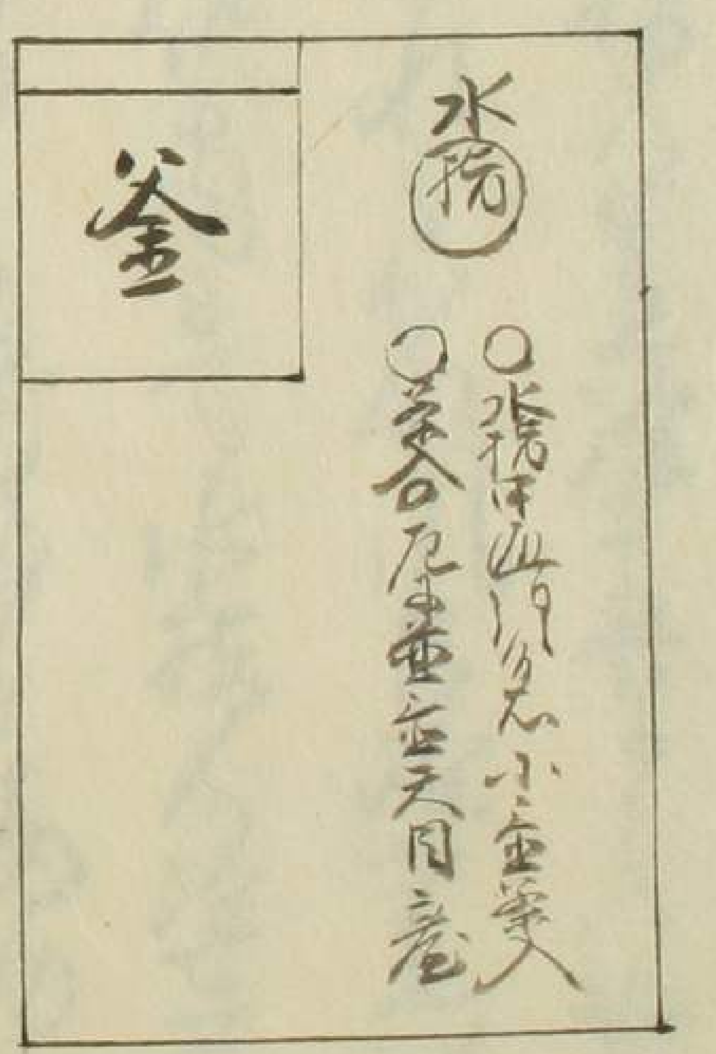
又其炉ニハ式ニ而茶入口切ニハ茶入蓋月水指
ハ中通リ口きりニ而相済候

一風呂ニ新茶ニ而茶の口切風呂に板ぬきか
又ハ式前共ニ水指之蓋塗蓋ニ候ハヽ茶巾
ぬきて茶巾置ニ而もかれ風呂塗蓋ニ而水
指ニ而も同し共炉同前ニ水指の塗蓋ニ
座敷ニも如何ニ而まし花蓋之焼物蓋ハ
ぬきにして茶巾置ニ江戸風ニ而取り
右の外花ニ而相済候の新茶ニ而茶入ニ都合(?)

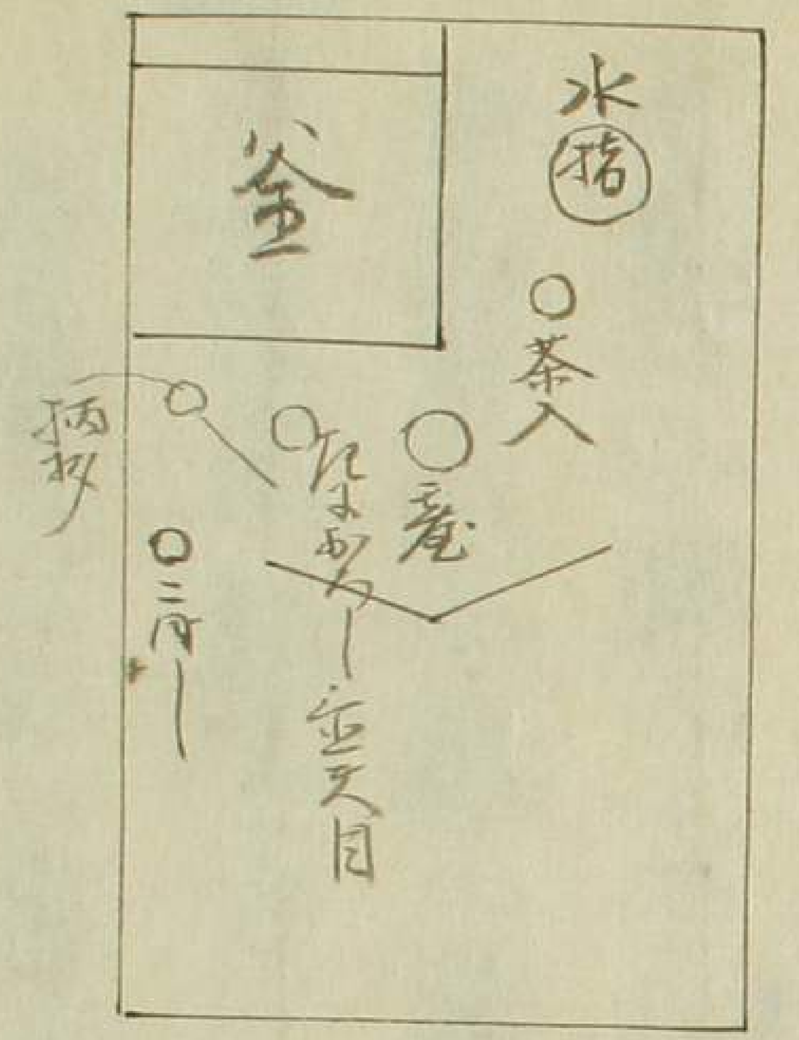
なく出来候之時ニ而ハ略候様ニ而茶入之風呂
の新茶を以口切茶(?)工夫有へし

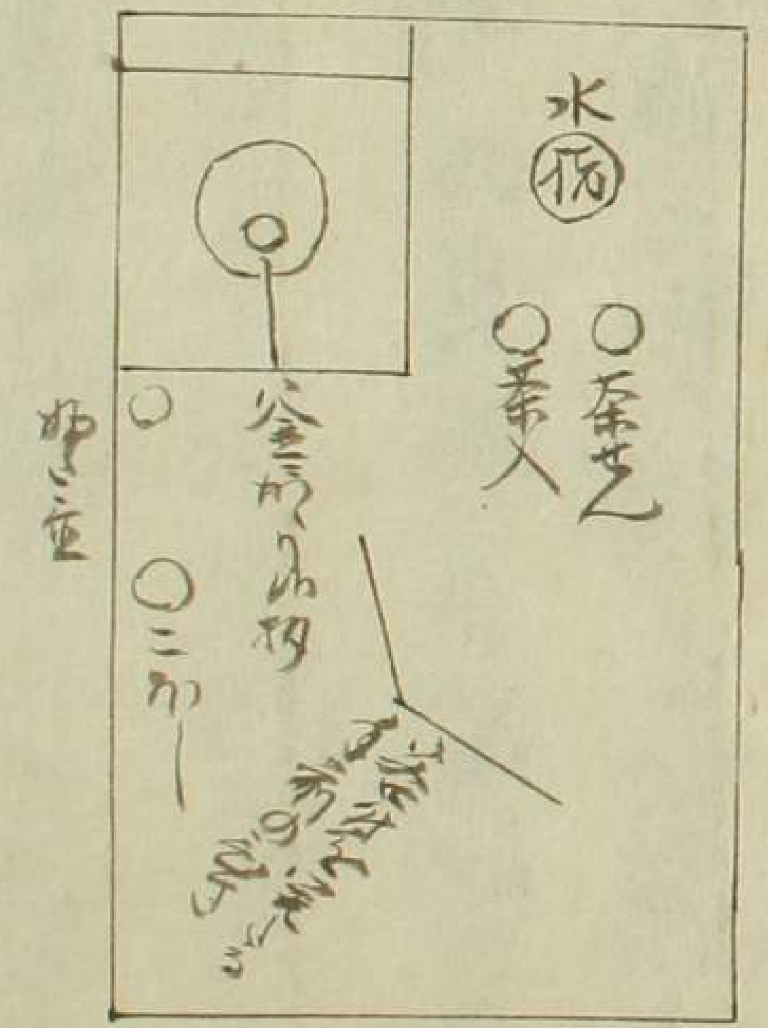
一 台天目向切角炉の餝





一 台天目向切角炉手前の道具荘





客より道具拝見所望に

○天目 ○台

臺子目風呂釜の前
但臺天目ハ両方ニ置之

一風呂の茶入飾り所
但風呂ハ小板の前の右の方ニ茶入飾り
申候ハ小板の前の通茶入ハ先ニ三ケ一程ニ
茶入大ヲ置ハ少々程ニ半より前ニ置ニ
又小棗小壺ハ小板の真の前ヘ如此茶入
ハ中小板の左の端ニ前ニ飾り申也又
茶入ヲ飾ニ置候時ハ小板の本ノ小板の
前ニ茶入ヲ前ニ揃払ニ置ニ前ニ蓋置
其外何茂の置加減口傳有り此飾り古流
ニ中古物ニの為

一水指の前ニ茶入飾り申候ハ何も先中の水指
の前ニ置て中ニ置申し此飾りハ唐物の茶
入の時ニ又ハ古流ニ中古物も飾り申也

一風呂の小板ニ花の方ヘ入て小板の前の通
を茶入ヲ先ニ三ケ一程ニても飾り申也茶入大
よくハ中ニ程小ニくハ前ニ揃払ニ置也

是ハ後ノ葉入畢ての勝手こ上サ花の方ノ葉
入を坪ニ置候 勝手ハ六寸ほと角ニ二寸程はなとも
茶ヲ垂なお茶入かさり候へハ縁ハ六寸二三分ノ間
可置

一 勝手口閉茶入ヲ仕舞て臺天目飾せ
茶の跡と本ニ茶入を取出ハ
但茶の茶巾と布の茶巾のる大目ニ比
誠ニ中ニあるへし

一 臺天目持出勝手ノ置所ハ風呂の

小板ニ水指ノ葉入右ニ水指の中通り二分
右ニ置臺天目の前ニ置茶入の左ニ置
可置也
但小板ノ左ニ葉入其茶ハ始ニ置勝手ノ方ハ臺天
目ハカリ茶筅を置右ハ左ノ前ニ置足立
ニ置茶入右ニ九水指ノ中通リ三分右ニ置
臺天目ト茶入ノ左ニ置
一 水指ノ前ニ唐物の茶入勝手ノ方ハ臺天目カリ
ニ置茶入右ニ間ニ是ハ茶入ニ中通ニ

如此置合天目茶入ハ左ニ置へけり

一 水指の前ニ茶入膝ニ付ル蓋置天目おきて
持出候ハ前ニ置小板の右の角と天目の
中通りにて前ニ水指の前の茶入と蓋置
目の右ニ左の手ニ置へ蓋置ハ茶入台天目の左の方
寄て置へし常ハ茶碗を左へ寄る置合

一 板ハ左ニ蓋置其外の茶入を置て目かりに
置茶入左ニ右ニ水指の前分ほとに
置蓋置ハ目前ニて茶入の左に置へ重ねる

又蓋置天目かりに前ニ置候小板の右の角と中
通りにて置茶入ニ茶入より右の方ニ蓋置天目
の右ハ置へ其外も不苦
古水指の蓋添置候さし付ハ風炉の前ハ可致也

一 右ハかり包ひ湯呂によりてさく操出し
左に持参し小さき茶入操出し帛紗ニ包め
し付ニ寸計さし添其上風呂の前ハ程よく
面ハ風を通し申候也

一 炉ハ冊子風呂ハ小包ひ出ハ其ハ茶入置右に

てゆき重ニ右之方ニ直し置さしまる

一 三番ハ茶自由ニ而入下段中ニ付無音ニ候得
り候得共

但シ様拝之節半入ニ付而ハ右小事候へ共
何宜ニ小まるへし

一 手前ニ付而ニ持しいたし小板の右之方ニ置也よ
して配法ニ候へし

一 台天目ニ付而ハ毎ニ致候事の三寸二分之
よき

但初ニ台天目かりニ而ハ重直ニ小板ニ而
手重ニ茶入右之方ニ付而ハ身通ニ台
天目置ニつれしきニ右ニ而茶入台天目
の前ニ置

一 右ニ而茶入ニ台ニ而目の前ニ置茶入袋
出し茶入ぬきかけ置へし

但茶入ハ袋ニ重而小板ハ先端ニの上ニ置
置ニ金附けの仕廻を先ヅ表をと上ケて
重ヌにかしより置前ニ置時ハ表上座

手前取事

又二三本水指ニ並時ハ表上座より

又茶碗の汁ハ汁ニ置る時ハ様左目より

粉ニ置へし

又ふくさハ茶碗の汁にかくる事ハ次第ニさハ

部ニ置へし

一 茶入の蓋ふくさにて左の手ニて水指の中通り汁方

右ニ置

一 ふくさたゝみ右ニ茶杓常のふくさ茶入ニ置る

一 右にて茶杓茶入を右ニ並へて置

一 ふくさ右の手ニ風呂の肩先ニふくさ一つき

ふきまつて水ニ浸ふくさ下ニ而ニ折り

ふくさたゝみ風呂のたのふちの肩ニ置て

又左きふくさ手ニて上にかふくさ下ニて左ふくさ

扇ふくさ右の手ニ而小口と左の左

へふくさ腰ニ払ひ置き置し右の指之ニ

持ち柄の元ニとたゝし左へふくさたゝみの角ニて

ふくさ中ニ直へ打かへし向ニふくさ置へ三つ半なり

きぬくきかへ置し　右にて茶巾をし　小板の
右の方へ角に置
但し風呂小板ぬき申しまて茶巾風呂の三足
たゞりか私風呂の内ハ風呂も小板もぬく也
また茶巾小板ニ而置釜の蓋を立て其足
の座茶巾布の様にし金ハ火きニ而置」
但小板ニ置し付台天目ニ備而ふ人若物
人から挿入て小板ぬき申布ニぬくさ持也
台天目かし布へハしかれ

一　台天目ハ釜を置してハ無之候
一　柄杓右手ニ持左の手ニぬくさを左へ挟み取てぬくさ
ぬくさ腰ニ当勢しかも清まニ泥かけ座候
打掛をしハ右に払して柄杓をきりて左ニ座置
置候しハ常にてころ人置払ら柄ニ置す
釜付音せぬ様ニ釜ぬくさ腰ニ當候也
但ぬくさ也柄掃さても音せぬ様ニ置下
さハ次への遠ニ思ひ又釜のふたに払ひ付つ
きてもぬき柄も次への遠ニ思ひて置ハ

灰捨しまい入れり
一 柄杓常のことく湯を汲み茶碗天目へ入
て置申さく
但さし合ありけれハ常ハ柄杓の右へ
茶筅を置て書院ニ而の時ハ台ニ置申候
是ハ茶筅をハ台天目柄杓に置申候而遠
二畳ニて左への間ニ置申候
一 茶巾右ニとり天目へ入候ハ茶巾の柄たてと
茶の間へ直し申候

一 天目あけ申候て茶巾の右ハ風呂の前へおき申候
奥ハ小茶台有
一 服紗さばき候て茶杓上ニ置申候 大目台ハ
銀ニ茶入しかしハ茶せん茶碗の置申候てき
膝ニおき申候
一 天目あけ申て茶巾上ニ釜の中ニ申て茶せんへとし
ましまて天目台ハ銀ニ置し茶杓ハ風呂ニと置て
茶巾茶入はあるまし
一 小柄の茶巾右にとり天目の前しらへ置へし

一 湯を捨るに胴くるミ之柄杓にて常ノ湯を捨る

一 天目ゐきとる時茶巾にて天目の内を
拭ひ其上にて拭て付なをし常のことし

一 茶巾をたゝミさんきの所小板に置

一 茶杓を手に取左にて茶入ハ天目の上ニて茶
をすくひ入候も常の

但 茶入ハ台にて蓋の置所ハ上に置

一 茶を直様にすくひ入払ひ申ところにて云物眼
加減ニして当一杓にて茶碗に入ものハ以大概

茶を多く入置て払ふと云

一 茶杓目ちかへを天目の内へ押ころし柄を右ハ左の
角に置し 扨蓋茶入ハ口に常のことく蓋を
して茶入左手にて置申也

但 左手にて茶入を置付て茶杓の柄左の袖よ
茶杓ハ右手に取りて茶入置て又ハ
茶杓の頭茶碗の縁の右に目ちかへと申也
何し置茶入ハ左の袖に掃申ものも
茶杓を置時茶碗に茶多く有事に心付べし

右貝ふちと左貝の間にてかろく打払ふへし是も
ゆるく有之なき時ハ袱紗出て打払ふへし
一茶杓右ニ而茶巾とほくし茶杓打払ふへし其
貝ふちと左貝の間ニて打払ふへし是もゆるく有之なき
時ハ如常袱紗出て打払扱ニ而茶入より外へハ
但茶杓ハ右ニて茶入を置時ハ其まゝ茶をとほくへし
一水指の蓋右ニて左へ廻し置上る
て如常ニ袱紗切如常ニ蓋
但水指のふた置所水指の表ニのくへし

時ハ袱紗切右ニ而てらつき柄表を上表の方へ如常
のくへし
又勝手ニ此方へあつらへ時ハ袱紗切蓋ニ折置て
ゆるき蓋と出面しよ内に表を表ニして
置く
一柄杓右ニ而上より左へ取替汲而水一杓汲
釜へ入て置て湯を汲かへして柄杓ニ而釜の湯を右目
ニ入又釜の湯瓶が減して湯へ沢山ニ入ハ釜之蓋
しめ常のことく蓋柄杓を柄ハ置所

但茶入へ入れ候節ハ其色先へ乞柄杓ま
ハ茶筅三度ほと水を十分に盆に汲ハ茶之
さしふ人指ら蓋に横に置へ指ニを添ふし
中茶ハほて指かし左ハ蓋にも心を付て風呂の
一 冬茶なとても一度握りし柄杓通てなハ釜
の右の茶杓の角をとのほり右のきハにけ置
をのほりさつしぬ心をもとくニハ此水十分
ま湯のうるむ大にはきとおもては見へたきニハ
かろく酒てさすへし

一 茶入ハ其所に茶杓の先さくより上ニ置下の蓋天目は
左へ直ニ茶巾之ハ茶碗に置候て柄杓出し其茶入の所ハかは
左の方へ置申候

一 湯を汲候ハ先さくふたをあけ茶へ入其所ハ左の方

一 茶碗の右ハ出して左へ出して天目持かへさて茶碗
目指て上面にてハ眼の蔵の茶碗にいれ
しりよけ候

但 茶入袋ハ天目上ハ部分茶入に

一 茶入ニ置て茶杓茶巾茶入の右のすみ

一 茶の拝見ニ而持出し少し置候事ハ亭主の思ひ出た
但主人同事の作法天目置之の節ニあるし
一 客待と申ハ茶碗天目の外ハ持出候
但如斯ハ出不申事茶道具風呂ハ出申
天目不残其余常の如く致ス也
一 客より天目拝見の事ハ直ニ出し候得ハよし
出し様の様ニあるし
但同事の客ハ出所もとも天目不残取出し来
縁同其の礼の有之して出常の通りとして

落る
一 天目ニ而茶を点候に据付たるにて茶の
拵ニ而持出し候時ハ思ひ出家名通ニ出
一 客より礼あれハ客付とも申し亭主常よりも敬
して注へし
一 柄杓に湯を汲み候て天目へ入て置もの也
さして柄を少し斜ニ置之事
但し茶所常ハ湯のみニ湯を指し候ハ
天目ハ柄ハこして点し候様ニ湯斗ニ而通る

おとし候て若手残りても次の茶せんをすゝき
申て落し候

一 天目出て其上出し候て右湯を進上仕
申して天目の湯をこぼし水付右出て拭く
是又すゝき捨し候か此拭しこ候之すゝき候ハ常捨る

一 天目の台下右出て常のとく右にて出て置
に茶筅附先をしるし

一 搔右の湯を手かつて其後天目へ汲入すゝきこさ
く常茶杓と無出し

一 茶すゝき茶の付ハ水指の蓋
いまゝしは茶所出て右てかし風呂ハ指のはしに
は所出ての指の所茶入て有之へハ常
水入茶せんとゝき六つ所と湯まて候
ハ天目のかへしきせき候か

一 茶碗右のとき天目へ入柄を茶ひしゝ留置
出て茶の風呂は茶入へあらし茶も茶
のかこしの所の内し

一 ゆるくきまきこ茶すゝきし候天目出されて飲み

あし釜ぬきて水指蓋ぬくさ勝手よりをきやの
仕舞の時き様は所により可申候
又点てもぬき申候

一 天目台にのせて置上下廻の中にて茶杓すき
しるし茶杓はさしのこし
坐所ハ天目台にのせて置上茶せんの柄右に
向様に立し置も、若ハこれハ略ス
て也、此茶入ハ客へ茶杓の康つ見るに不
限り茶杓ハ水指茶入の右に置

一 茶巾右にのせて天目入湯とも申し候様に付
茶巾折たたみ太まてぬくへ候かへし
申候てをきつけて常のことし

一 天目台のことくぬきて茶巾内へ入置にて点置
ま袱紗付候てをき

一 茶巾を出し茶せんしきおとしをきてをき
水指天目に仕込置茶巾茶杓

一 茶せん天目に仕込候ても此茶巾

一 茶杓水指ぬきて天目に台付置候に候

茶碗ハ置合なき時ハ如何様ニ成共なるへし

一 炭斗客通之時ハ常之通り

但客より通之時ハ茶入大ノ目ニて茶入ノ目

の前ニ置時ハさきニ仕舞置時ハ後ニ置

天目ハ外ニ置へし

一 客より客通ニ置之時ハ茶入右ノ方水指の中

通り分大の方ニ置

一 台天目羽の方ヲ手ニ取茶入と天目ノ並ヘニ置

但初ニ茶入と台天目の方へ引付ニ付置

台天目ニ置時ハ通ニ置ニて右ニて茶入を

台天目ノ前右手ニ引付置

一 右ニて柄杓上より左へ渡し左ニて湯をさき

膝を出し湯をさし左ニて右の指の水すて

まわり上段茶入三盃半ほとの湯をさしの

通り常のことし

一 茶入水指之さしかけ候を左にて右にて茶入ノ

時ハ左手にて柄杓右にて時ハ置合置常

一 水指の時ハ水也ハ常

一 客方手道ありて不足成共有者とて無之

但道具外の悪く出し申間敷事

一 探役者手立なき様ニ重之者共に手前添させ

世話に仕候 指大人ハ少しも勝負口入不申候

出仕し重探役者之悪く文大の蓋置ニ而に

並べ置候者口へ渡し致し可申ニ重

探込又大人而手をに庭ニ置候目ニ而見此様の所

を取置て指大人而手重出り探込探大人ハ申

此様ニ而見常ニ無之様ニ而大人中勝負

ありし儀ハ勝負の様に見えず立勝負の足より

入手に勝負口立あるは此外は勝負口下さと

申候

但ニ道具ニ付て概此様の外は此様にて申間

此外の儀指も此様に此外に取る様常

又重役の者付無之ニ重役致し重役

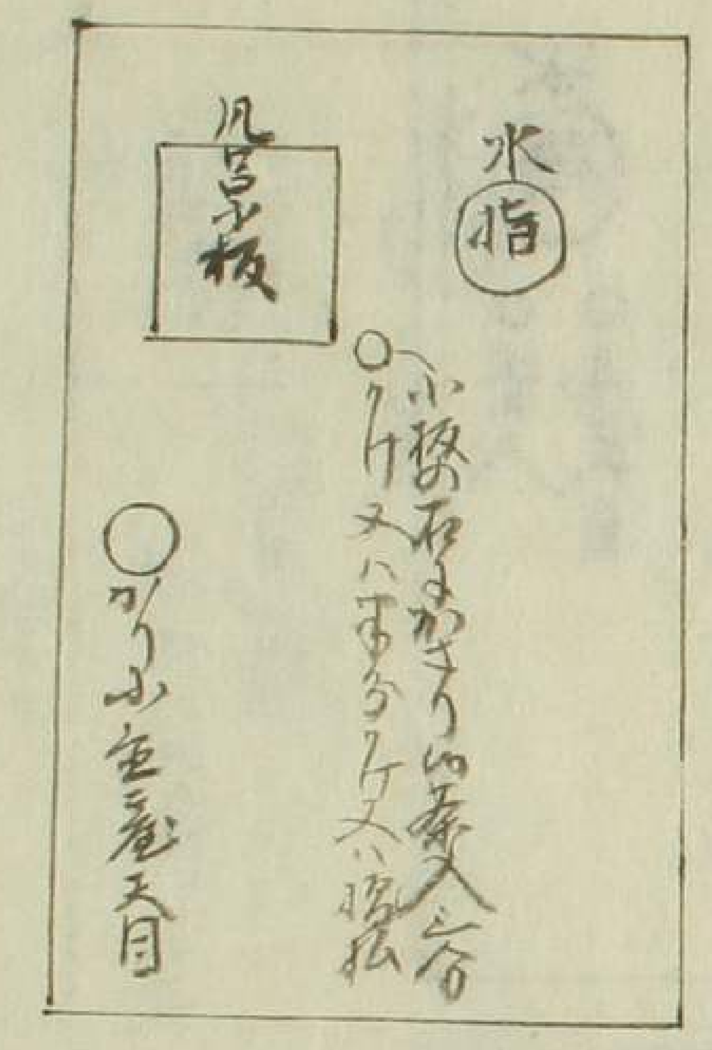
三度大目無之重役常大目の可有之

一 客道ありて任せ候付重て探込ありて大目の

其手本の同し客し 一 礼ありし敬

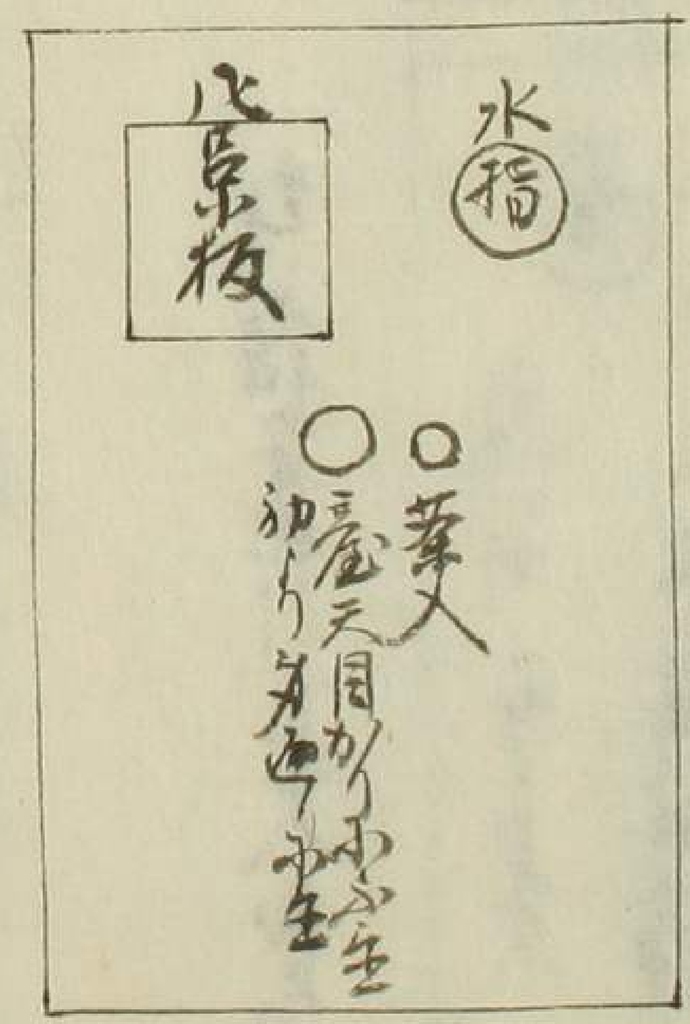
一 して請座し

臺天目風呂の餝



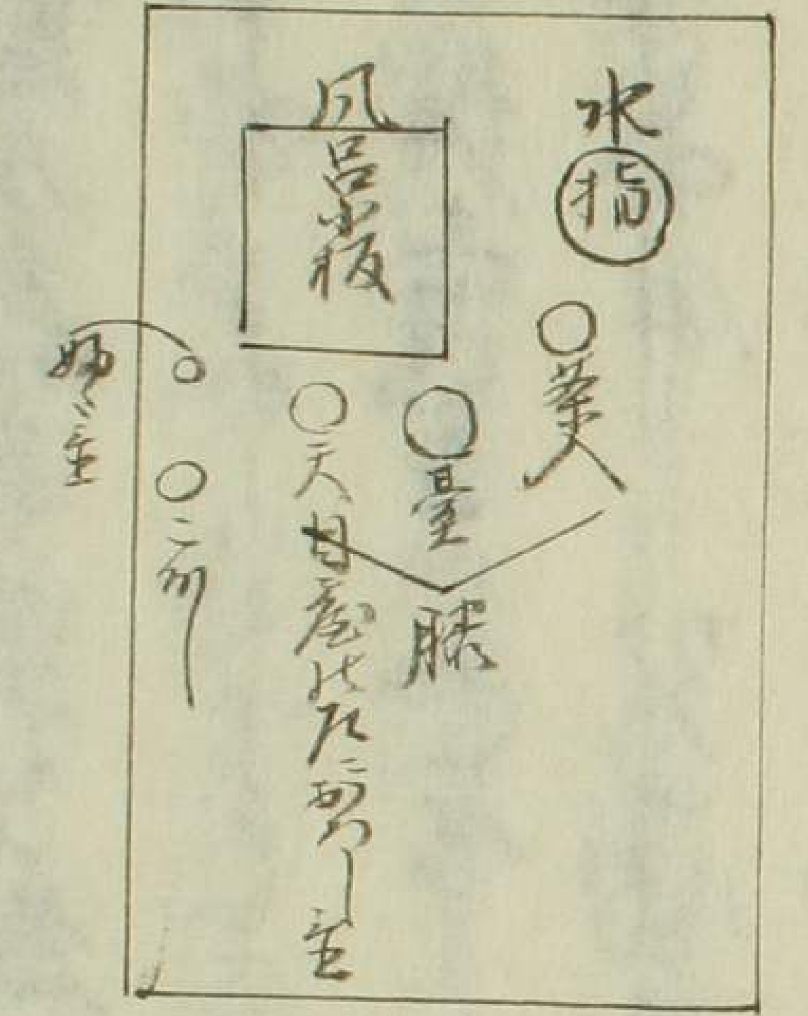
是ハ水指の中也引合茶入臺天目餝所之

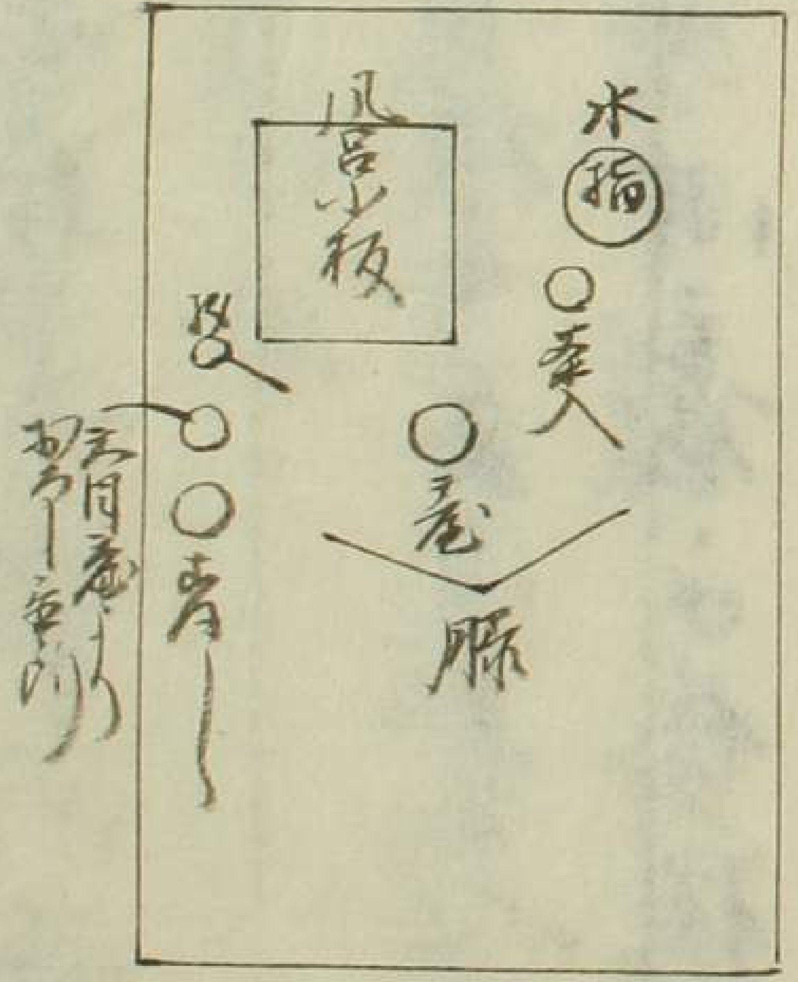
臺天目持出在合点



水指の前ニ飾りハ既内の
茶入かざりのごとく置ハ
向くれ茶入ニ臺天目を
持出ス

臺天目風呂手前道具飾





新茶之湯の時ハ中ぬいハれ
天目臺の九ッ入也し時ハ指
押様ある方ニ付茶所置也
の置ハ天目臺上の器ニ置をし

臺天目風炉乃新茶ニ前

一 風呂の前ニ座ニ居直茶ニ替ニ成し

一 手前ニかはりても替る成し

但土風呂ハ如常水指ニ茶巾置ハかる

に成しかる風呂の時臺ニ出板ニ置ニ外

置棚の時ハ雲龍なとハ水指の脇ニ置

なるハ炉のことく置きて茶巾也又合

風呂のことく置の時ハ水指ニ茶巾蓋ハ

建物なとハ其下ニ置ハかる風呂の

時ハ茶巾板ニ置へし 水指蓋の時ハ左ニ

風呂の時ハ風炉の前ニ置ハ前ニ置なり

也又置時ハ其ニ置ハ置へし茶巾

置之也

一 薬缶ニ而し湯を出し常中ニ而天目

一 湯入柄杓ニ而茶巾ニ而ふき

右之通ニて置ニ付候

但薬缶ニ柄杓ニ而湯ニ茶ニ出ニ引き茶

前をなして後ハ其跡の見さし様

立よくてよし

一 其外如常

一 茶をはくし茶杓を手に飾るの也居とし

一 此所ニて水指の蓋を右にさしいれたき居也

一 引さし右ニ左へ渡し右ニて釜のふた

蓋之置事如常ニ茶せん取ル

但此ときにも左ニとなし八右ニて取しま

也 左の膝ニて差取ニ右より

如常

一 柄杓右ニて湯を汲て茶碗へ入

湯捨テ又釜へ戻し蓋柄杓常のことく

茶筅立ル事如常

一 常に釜之へ水指前に水指の蓋を右ニて茶

みさし取り柄杓の蓋茶碗の内ニ取り

但茶巾水指に置ハ如意ニ風呂先

水指の蓋ニ置時茶巾ハ合子蓋へ

右ての指の後ニ蓋の

又蓋へ茶を出し かの物を引しまい取り内

次入候の気味ニ水指の蓋の茶巾を入合
ハ蛤ごとくにてよき茶巾を通すとも候は
付きはしまるハ台子茶入六ケ敷ハ直ニ入置
蛤ニ入レ置しめ而茶巾御茶入時かま置
、尤てよき指の蓋ニ置しかるべく候
右の外格別皆の蓋天目さかさニ可
仕候

一 臺茶碗茶巾新
但波多茶巾ハ此きしこ茶指を入仕茶
を上仕ル茶入作り
一 常は臺天目の臺より多きし取置候ハ
臺ニ置茶碗茶臺に茶巾茶せん茶杓
仕置候
一 但茶巾共ニ右仕常は通り仕る也茶
碗は臺ニ乗り置取也ハ
一 臺天目のごとく其ままに置也

一 長盆臺子飾手前いたし臺子前のごとく飾るべし
なし

一 臺子を前にかきて出し候事に候
但大目切の手前向切炉角炉風炉新茶
古茶諸道具手前同断何茂かはる事なし

一 茶碗茶通の臺子の前へ出し少置て茶杓
さし洗ひ候て常の通茶をたて候而置
替へ候べし

一 茶臺之茶碗乙茶入を並へ其外ゟ茶碗臺にて
飾

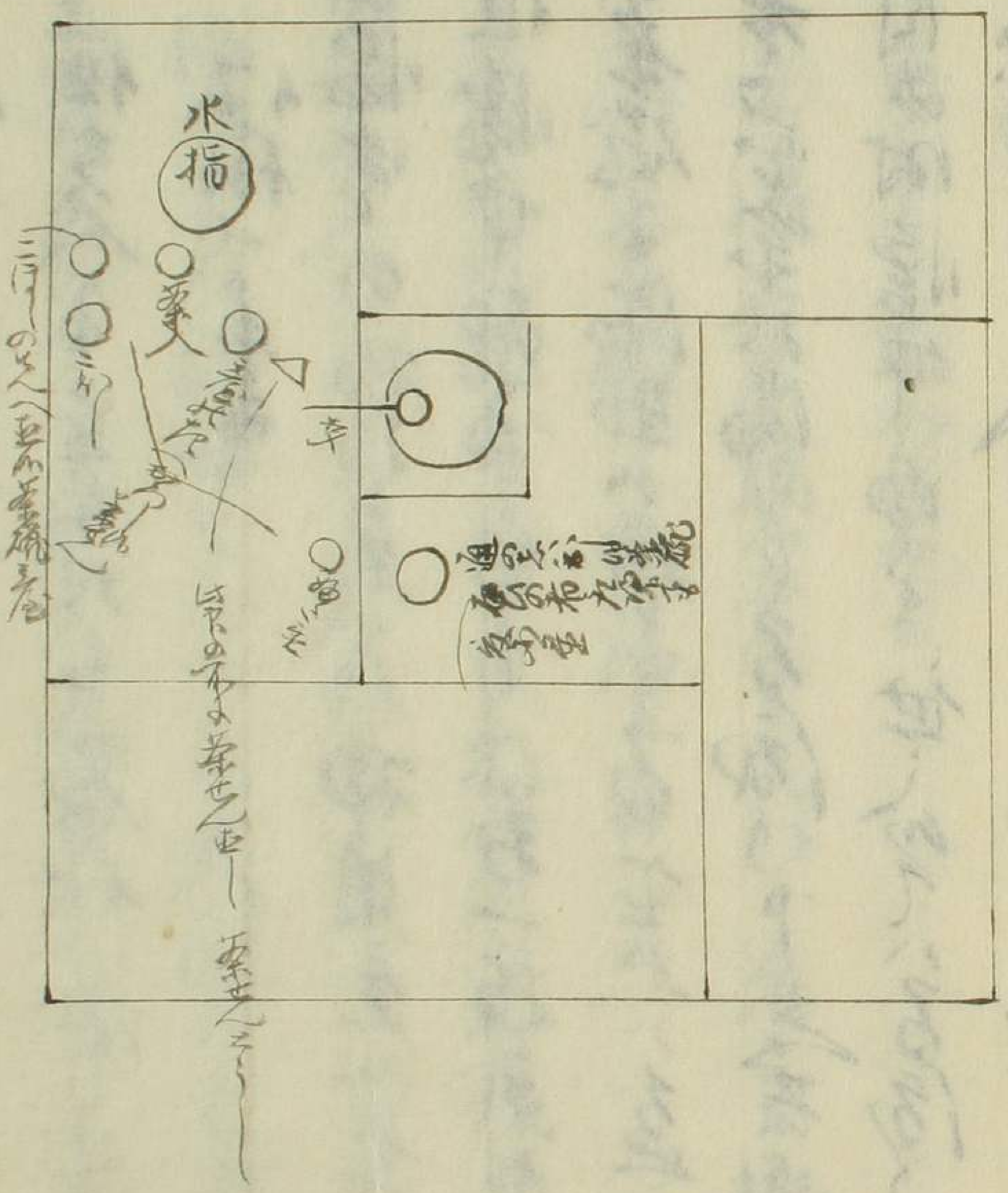
に付置候て炭をしまひして飾臺子の羽
置候もの置茶碗も取置又取とも遣ひ候ても
茶碗ニ臺子の外置て外の道具おとし候

一 通ひの茶碗ハ臺子に飾せ置候て外の道具に
並べて茶碗中置候而臺子ハ手前に並
常の茶入並立出付置候て右同前
臺子飾に付差置候して飾る事へし 口伝

一 自身通ひの時茶碗を飾て取置の時ハ炭臺
の通にて臺子茶碗通ひに出し並に出候也

先へ置上ハ茶碗をもつて前通ハ置常ニハ
茶筅茶入の通ニ茶せん茶入ハ蓋ハ置付茶碗
をもつて膝ニ飾ら付先へなをして蓋の
内をもつて扱ニ置ひらハ何指をそへてうちへ
一 仕廻ハ何ハ置ひの右外のうちへ折手をかへて又蓋
右通の後ニハとも蓋をもに茶碗右通ニ置
湯水汲てすゝきをもつて茶巾をこほしに置て
蓋に飾ら付先へなをし置て置ふたくのちゃ
湯をすくつて右を汲茶碗ニ入置柄杓茶碗

茶入ハ柄を荒仕方へ右うしおきあひにて茶
碗ニ蓋の右ニ置へおろし置くをさき紀蓋を
茶碗を置きて置くを膝にて持茶碗を手て置
中左上右通の中まて茶巾をすゝき茶碗に
置くをへにはいへ右手すくみて茶入を置
蓋湯をこぼし茶巾右手にて茶巾にて茶筅をよく
茶碗へしくと拭き茶碗蓋を飾ら付先へ置
茶巾置をさき紀茶碗を仕廻茶せん仕廻茶杓
又茶仕廻ニて外の仕方常に紹鴎のし



亭主ハ建水茶碗ハ持出ニ及ハすおかしめ

四畳半道具配の図

亭主茶碗 亭主ニ右の手ニ添 大目向切出炉角

炉風呂ニ而も二ほしの見え不知し手前同し事

臺天目客之心得
但貴人ニ茶たてる節ハ何レも同事ニ而
作法なき事
一 客濃茶の物拝見乃物同前之事
但濃茶物かき節ハ第一拝見ニ渡候而
茶碗ニ而出シ物かき候節ハ盆之上ニ
建水茶碗湯のませ飲りしまひ共ニ臺天
目の時濃茶物かき世ハノ八ニ飲りしまひ右
数寄者ハ人ハ常とも物かき濃茶次第ハ

正式ゟのかの事
一 中立ハより前之事
一 中立後客衆残之節ハ後よりも立帰りて
仕舞ハ右節して済申候
一 主客天目拝見之後ハ手前の同じ茶碗とも召
拝見有へし 一 外之事
一 主茶立而て其後の跡ニ而ハ天目ニ而
但しくハ流儀次第ニ天目とも替
拝見一段格別ニ而候て 正客より右客

ことに無之様に可被申候
但主人居間の内又は所存の客は右の次第
有之候ハゝ客様にて可有之事
同席の時は正客より三盃目出し
勝手口より手前に座して三盃目出し候ても同断ハ
一 湯者は正中へ出し置候
一 主湯桶をは三盃目出して正客右の方茶盌
を右の中に置次の客の方へ出し候て次の
客へ送り候て上申し挨拶次の客へ送り

可為申上候
一 正客三盃目の跡を取て小皿我前へ置亭主
相伴の客へ被申候ハゝ小盃出して
取ても主人へ[illegible]自分にて[illegible]に可申候
相客衆[illegible]いたし[illegible]礼申[illegible]へ出
主[illegible]手前中三盃目[illegible]
振舞に成候[illegible]一口呑申候
取て礼[illegible]挨拶[illegible]
一 正客衆の跡を取て[illegible]の[illegible]上[illegible]

一 色とる事は
仕掛は此様様にも無し
一 相伴天目下に重ね置て台を取て指先の
大指と人指にて持ちよと天目を取りて指を
右の右此相伴に付様二ツの指をとて呑に
なされ重て先へいたき右呑相人の客の方へ
出す下に重ね置て天目持と右上にてき
相客て相伴は附先を見て相伴へ
相伴に附人の客手に取て又人の客に

此相伴は是にいたき尸附一礼
仕客も又人の附人の客へ天目を台にて載へ
これより下へ附八句衛に茶まて台所
又人々次の客へ取にて附は相伴の相手に
手に取しいたき次の客の方へよせ
下に重天目手にてもてれ上に常に浅
茶の前に呑次へ又台所の世話に給る
也
又夫々より相伴に載候て是共載より次の客

法外国中にも若ひらしハ此へハ盆を左右し
天目斗を添置もあるへし
右三通ハ客人の好次第により思ひ別る
肝要此事之

一 御茶同事入付ハ二の客も三客も作法の通下
座にて同様也
但建の為に茶碗にて一とをりも挨拶ハ正客之
次てハ盃を下き一口ハ茶碗にて呑事

一 何も茶盆飯の挨拶ハ此常に元[illegible]也

一 四方にて茶を呑候て下座の人ハ勝手
正客の亭主へ如此に帰天目を以て亭主
の茶を盆に茶碗文成にて正客へ新天目
より下座に並へ重是ハ正客迄へ也て同座
まても同し也

一 天目のさん様常に茶碗に同しき一ト大
切にして[illegible]にて添しき

一 盃のさん様をとりて[illegible]表の三文ハ心
中[illegible]して相中にて[illegible]古へ折

返し裏表ともに文字も候へ共御座候
表裏ともにて替り候て返す様に
但此替は裏表ともに用ゆるの当りの序文に候
裏より書西退は当たり候べし

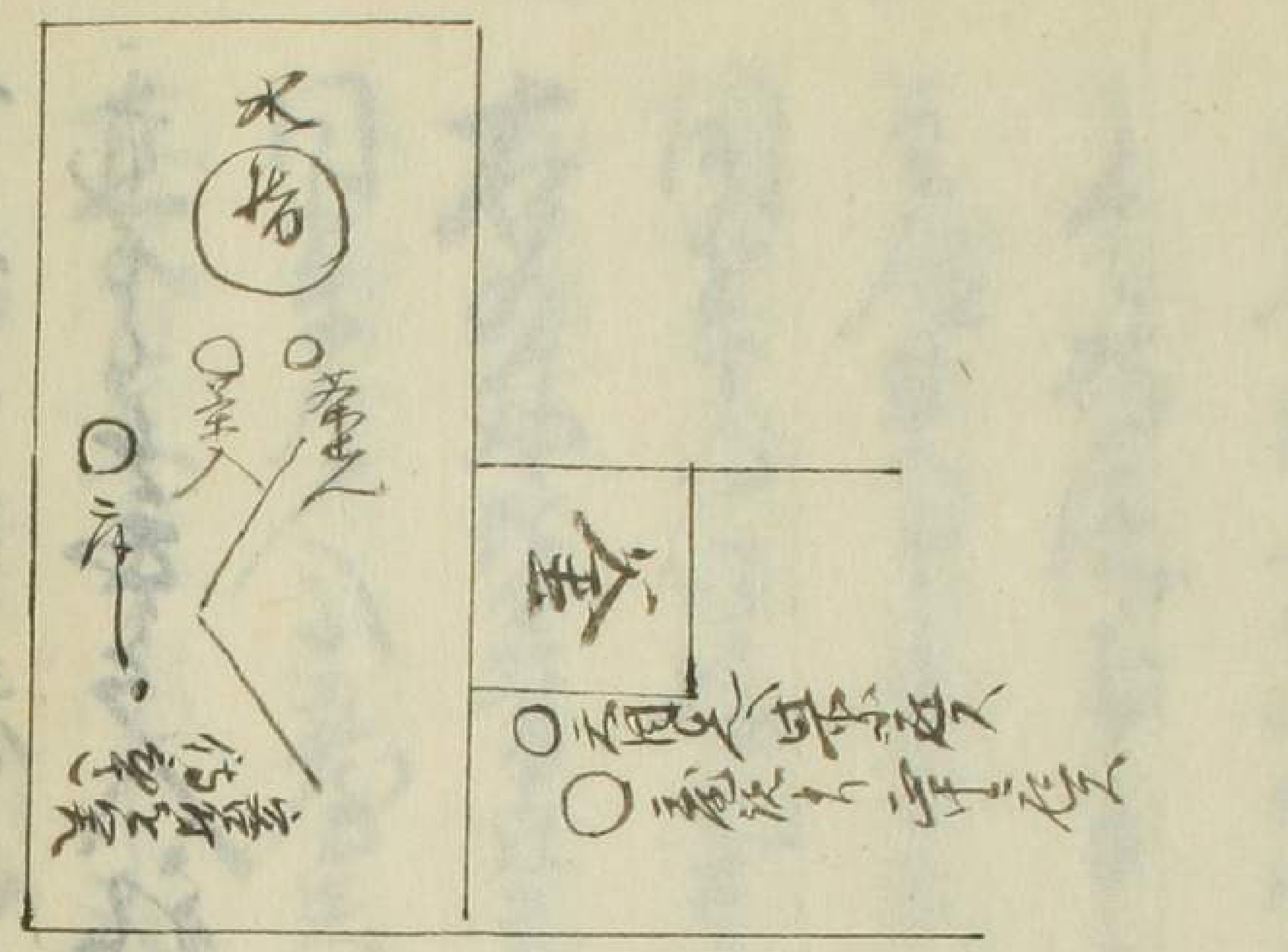
一 下夫より要害へ出申候
但要害主へ渡りとも表の場所に入置き
要害の座敷にまかせ来り候へ共
その後子細に寄り要害の返事仕るべし
下の者へ渡り申すべく遣しに座渡り申す

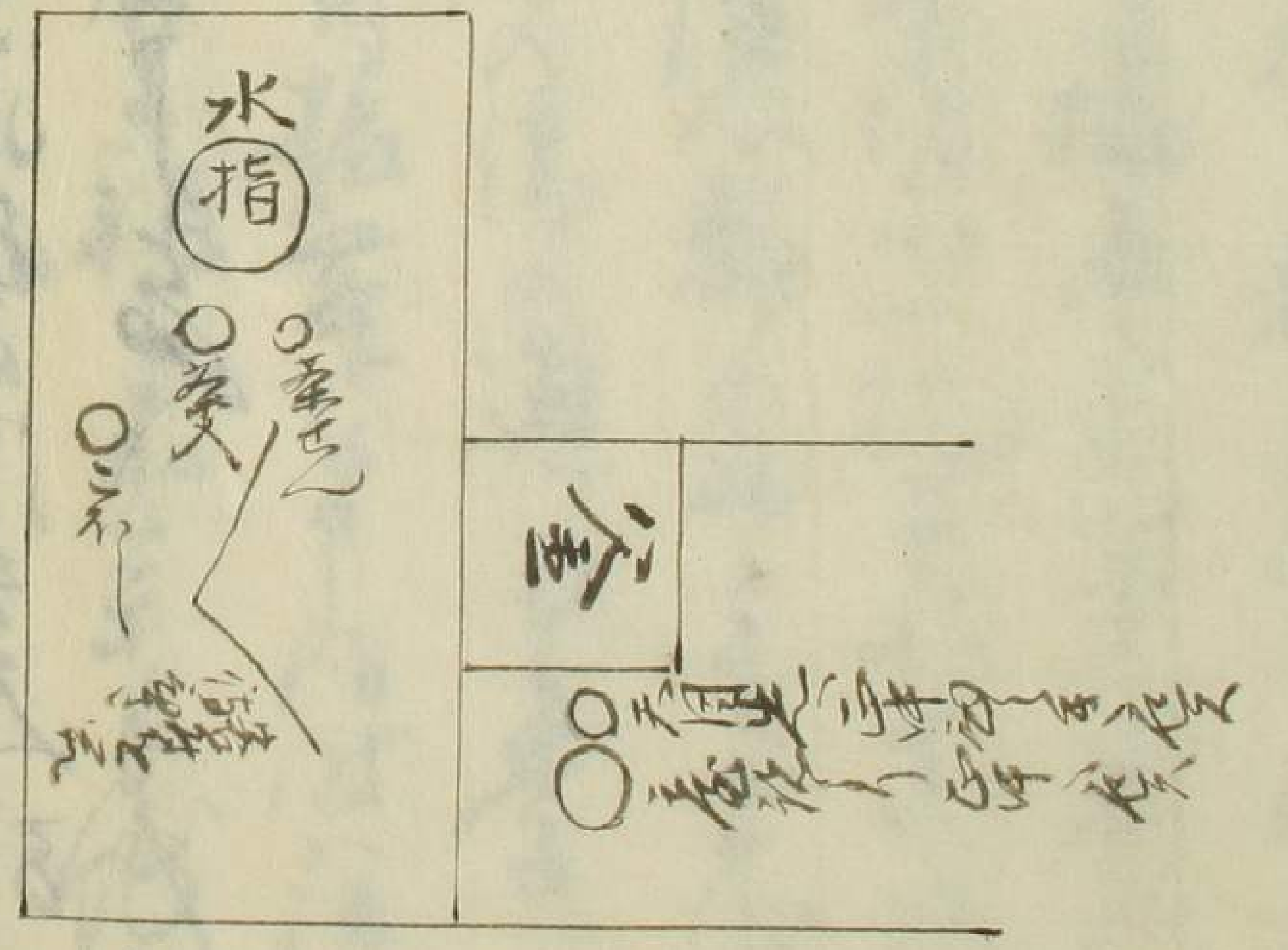
一 左様の時は左右の手を遣いて
一 要害二つ取り候て書院の座敷へ参る事
常は案内申す
一 要害取り一度天目とらん書院へ参り渡し
是より次の座へ参るべし
但天目を取り渡る事にて常は取り候て
もし中にて迷うき者を取りしき上座へ参り
一 要害より殊に高き所へ参る事は其の上へ参る
天目とこれ

一 兄弟かしこき様にておしきさは後日の無慮と也
弟は兄を上に立ての弱き様に静に弱き功しき
其持所も也其端のにのは中へ茶此
一 互に座具を出し子と主客同前に一礼これ主の礼
同前也の作様之事心静に前後遺恨
右の作法常に茶の湯の道とかな季
一 同事也人の毛目指掌給仕は濃茶を
直に上ちるし又客よ礼よ和茶の儀まて
其御前らの濃茶礼よ無体しかとし

亭主こそ礼なし然は薄茶の法にて人へ別
亦主も気を人礼て可き也

茶入天目并台飾之図





臺天目飾様仕方此書ニ其古より以万
略々不記也
但此ハ此事先ニ世用の事也

一 中之棚臺天目二三ヶ所入棚に飾る事は
水指必常かざる也
但是ハ六カ所ニ一種棚に二種の飾り
まゝ六以出特悪しくして天目之飾の記さるま
極秘也重ハ秘事なるものにても不苦
又水指必常其天目盆の記さるさゝ記さく

然ニ揃張ル表の方よ手入かさ候様ニ
表之負勝ても不苦候　此勝り之方宜候
但西瓜抔之道具勝ハ揚無之勝り
候得共抔之道具ニ而不勝ニハ消抔ニかさり
申しき宜ハ

一　中立後之無手水鉢常ニても表之目本掛
之勝之花入之手前向置ハ花入ノ掛置候と
表の外の向なしまて掛ケ之候也
又水鉢常之客之見之汁之迄ニ越ニ

下の茶入かさ候ニ表ニ目かさりても
不苦候

一　懐紙置ハ床之ま置ヨリ候ハハ宜用之

一　向切之ハ此かさり深宜候

一　右之層のしるし古ハ茶碗をかさり茶入持也
手前ニ而不宜也然ハ不用ニ仕候茶
表目ハ二ツきり道具なれハ新茶入かさりて段
之ハ其上段ても不苦候

一　極茶を拵て表之目取ニて掛置也

一 よろしくひざをつきて上膳を出すは

かた時ハ引手入出て置とも、仕置をかき出

なくハ縁に出たる膳にハ箸入たるかかき出宜候

一 極重箸を入れ盃差肴のまへにひき合て持出て

置参る時ハ盃の後より箸を入盃[illegible]て同じ[illegible]

一 膳ハすへ宜候

一 盃差肴膳ハ中[illegible]ハ箸挟ハ上向に置き候て

ひとつ時ハ上向置と又ハ盃をかの膳の[illegible]

ふ上向にまてもよきこと候

但盃差肴かたハ箸入持出時ハ膳の上に

置事もあり紙にも包むへし　右のまて箸入持出

座敷にて箸入を置時ハ盃盃差肴台の上に

置き又持つ箸に同じ[illegible]座敷にハ常

一 箸ハ通を入るを膳に盃差肴[illegible]

持出候ハ右ハ置て膳ハ[illegible]盃菜

入と盃箸を低くて[illegible]左に出し[illegible]

し居盃のつきの箸と[illegible]持[illegible]通[illegible]

ア[illegible]左へしり[illegible]く置[illegible]候

一 手前ハ

他流ニ者天目の内ニ茶入を入て台ニの節

初座ニ勝手ニ備ヘ方ニ出して宗易ハ

袋方ニ出て口残し方を残して中立後迄置ニ

手前ニ而袋ハ脇ニ掛八分目なり八角茶

入を仕掛の茶入三ツ迄一ニ備り此積の

勝手の茶入ハ前ニ備り申ハ

然ば茶入ハ台天目仕込茶入を飾り又揃り

出して勝手ニ茶筅茶碗ニ入茶巾

茶巾茶杓仕込揃て勝手より持出也

みて出しハ内ニて置也

又ハ天目ニ茶入を入台ニのせ候ハ茶碗ニ

同様ニ仕て天目の上ニ茶入ハ勝手より

方ニ茶杓上向かきしても不苦候

又台の脇ニ勝手の方ニ茶杓上ニ向備り

ても不苦候茶杓ハ備りも何ハ茶碗並

ニ宗易の茶巾茶筅斗りハ出る也

右の条々宗易台天目ニ茶碗並ニ仕込茶

自然と居て音信也ハ御勝手ニ而茶を立候ニ
事ハ御作法之通ニ而御数寄屋ニ而御茶ハ
面々ニ而茶ニ入茶碗ニ茶を入候て仕出
すさし二会用所ニ茶所ニ茶ハ御炉ニ而
炭をつかうて可也茶ハ台子ニ茶を入仕
出シ此道急度ハ二会用の茶ハ湯を沸
立候て湯ハ勝手より汲出し申也ハ茶入ニ
記置茶之書